INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

- 日本リーグ唯一の公式試合球
- 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

普及の胎動

（財）日本ハンドボール協会常務理事　角 紘昭（普及担当）

日本協会普及部では、少年チームの創設や活性化を進めるために昨年、今年と全国各ブロックで普及会議を開いています。その会議には各都道府県に普及（小学生）担当者１名の参加を依頼し、さらに、チームの指導者や関心のある方の参加も呼びかけて行っています。

各県の実態の報告や情報交換、その他普及に対する意見交換、他地区や外国の普及状態の紹介等々を通し、それぞれの地区に合った普及のための活動を進めていただけるようになることがこの会議の最大のねらいです。これまでの会議での提案・実態報告をまとめてみました。

地区によって活動の差が激しい

それぞれの地域に住んでいるハンドボール経験者（指導者予備軍）の多少によって活動に大きな差が出てくる傾向があります。県協会をはじめ市町村の学校や協会、その他のスポーツ組織の連携により、眠っている経験者が指導者となり活き活きと活動し始めることが多くあります。

選手経験者を指導者として呼び戻そう

中・高校での経験者が地元に根付いて活躍しているのがほとんどです。これらの経験者は選手時代にハンドボールの面白さや楽しさを十分味わった人たちです。また、かつて少年チームでハンドボールの魅力を経験した人たちも、成長しクラブに戻って指導者として活動しているケースも多くあります。昨今、企業チームが意欲的に地元へ出かけて少年チーム活性化に努力しているのが目立ってきました。企業の組織力は地域の活性化に大きな力となっていることが実証されています。

さらに行政施策の活用を

現在、どこの市町村もスポーツを通して「青少年の健全育成」「成人・高齢者の健康なライフプラン推進」を掲げて、それなりの予算措置をしています。県及び地域のハンドボール協会が先頭となって「少年チーム活性化・ハンドボールを中心としたスポーツライフ」を活動目標として掲げれば行政の施策とタイアップして効果的な活動が可能です。

スポーツライフの構築を

特に少年チームを指導する際には、鷹の目（そのプレーヤーの生涯を見通した視点）、蟻の目（年間の目標を達成する視点）の二面性が必要です。指導者は身近な研修の機会を利用して、この二つの目を十分に身につけることが必要です。

晴れの舞台の経験で成長する

晴れの舞台（大会・交流会）に立つことで子どもたちは緊張し、成長します。チーム全員がその場を経験できるように、関係者はできる限り多くの大会・交流会を準備することが必要です。

このようにまとめてみれば当たり前のことのようですが、協会の立場から、指導者の立場から、今一度、周りを見直しますと、普及としてするべき活動は多くあるものです。それぞれの地域に合った普及のための施策を考えていただき「少年チーム 3000」の目標実現にご協力いただきたいと思います。この１、２年の間に全国各地で開催される大会や交流会は飛躍的に増えています。それと同時に、それらの大会・交流会に参加するチームも 500 チームを超えるまでになっています。これらのことから普及の流れが実感できるようになって来ました。

さらに、日本協会では普及部小学生専門委員会を中心に、大会運営の基本的なマニュアル作成に取り掛かっています。これにつきましても今後ご意見を賜れば幸いです。

平成17年度全国中学校体育大会
第34回全国中学校ハンドボール大会

男子：けやき台（茨城）、女子：東久留米西（東京）—1,235校（男子688, 女子547）の頂点へ

心をつないだ豊橋大会

（財）日本中体連ハンドボール競技 東海ブロック長 **牧原 宏太**（愛知県：蒲郡市立大塚中学校）

はじめに

平成17年度全国中学校体育大会 第34回全国中学校ハンドボール大会が8月21日から24日まで、豊橋市総合体育館3面で開催されました。

愛知県でハンドボールの中学生の全国大会が開催されるのは、27年ぶり4回目なのですが、第1回が、長久手（9月まで開催されていた愛・地球博）会場で行われたということもあり、記念すべき大会になるよう2年前より強化、準備をしてきました。

ところが、大会初日、朝から雷が鳴る大荒れの天気。昼には、落雷から停電し、会場は真っ暗に…、この先どうなるんだろうと心配されましたが、みんなの願いが通じ、大会はエアコンの効いた快適な環境の中でスムーズに進みました。

男子のゲームについて

大会は、1回戦から気を抜けない好ゲームが展開されました。準決勝では、全国制覇147勝目をねらうハンド王国愛知の2チームと、関東、九州の決戦。会場の声援は最高潮に達しました。しかし､会場の声援とは裏腹に汐路（愛知1位）は、植田西（大分）の攻撃力を防御できず敗退、平針（愛知2位）は、けやき台（茨城）から前半4点リードするも、後半粘り負け、地元愛知5チームはここで姿を消しました。

男子決勝は、クレバーなチームプレイと粘り強さを武器に勝ち抜いてきたけやき台と、圧倒的な攻撃力を武器に九州大会から勝ち上がってきた植田西（大分）との対戦となりました。中学生とは思えぬスピードある身のこなしから繰り出されるパス、シュートが観客を魅了する中、最後まで仲間を信じ、自分たちのハンドボールに徹したけやき台が688校の頂点に輝きました。

女子のゲームについて

女子は、1・2回戦から、1点を争う好ゲームの連続。なかでも、チーム数89校の愛知の開催地代表豊橋南部も地元の声援を一身に浴び2勝の大活躍。準々決勝では、優勝校東久留米西と堂々とした試合を展開、GKの勇気ある堅守が会場を沸かせました。

決勝戦は、パワーとスピードの持ち味を生かし、接戦を制してきた本渡（熊本）を破った東久留米西（東京）と、カットインとチームワークを武器に勝ち上がってきた香東（香川）を破った近畿の雄上（奈良）との対戦になりました。

切れのある近間からのカットインとサイドずらしで点を重ねる東久留米西、粘り強いＤＦからの速攻とミドルシュートで対抗する上、その熱戦に終止符を打ったのは東久留米西のまだ2年生の両エースのカットインとポストプレイでした。東久留米西が東京に3年ぶり4回目の優勝の栄冠をもたらしました。

大会を終えて

大会を終え、多くのゲームを観戦し各チームの情熱溢れるプレイに感銘を受けました。なにより、地元の補助員として参加した生徒や後輩達には、中学生の頂点を競う選手のテクニックやスピードはもとより、各地区の代表であるプライドから醸し出されるびしっとした態度を間近で見られたことが最も大きな財産になったと考えています。

この大会期間中、助言や協力を惜しまなかった競技部長・佐々木英明先生を中心とした各地区のブロック長の先生方、また、いつも親身になりご指導くださった日本協会並びに愛知県協会の方々より今後の競技強化、普及の方向性など多岐にわたるご意見ご指導をいただきました。愛知県専門部として、更なる競技力向上に生かしていきたいと考えています。

最後になりますが、ここまで幾多の問題、不安材料をチームワークで乗り越えてくれた役員・補助員の皆さん、東海専門部の先生方に対し心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

さらに、（財）日本ハンドボール協会、（財）日本中学校体育連盟、愛知県、愛知県教育委員会、豊橋市、豊橋市教育委員会、愛知県ハンドボール協会、愛知県中小学校体育連盟、豊橋市中小学校体育連盟その他多くの方々の多大なるご支援、ご協力により、この大会を開催できたことを心より感謝いたします。

来年度、香川県高松市で開催されます第35回大会の成功を祈念して大会終了の報告とお礼といたします。

（大会結果についてはp. 24スコアールーム①に掲載いたします）

地元開催地の声

選手のすばらしいプレーと補助員生徒の活渾に感動

豊橋市実行委員会事務局長　立岩　秀公（愛知県中小学校体育連盟豊橋支所主事）

◯視察から開催まで

平成 17 年度全国中学校体育大会第 34 回全国中学校ハンドボール大会を、愛知県豊橋市で開催しました。全国 9 ブロックを代表する男女各 19 チームに、開催地代表男女 1 チーム、合計 40 チームをお迎えしました。

平成 15 年度函館大会、平成 16 年度千葉大会を愛知県中小体連豊橋支所ハンドボール専門部のメンバーで視察し、昨年 4 月に準備委員会、今年 4 月に実行委員会を設立し、大会開催に向けて準備を進めてきました。豊橋市での全国中学校体育大会の開催は、初めてということもあり、日本中学校体育連盟、日本ハンドボール協会のご指導ご協力をいただき、滞りなく運営できたことに対し、心から感謝申し上げます。

豊橋市実行委員会では、全国から来豊する選手・役員のみなさんに「温かく人情味ある歓迎をしよう」、豊橋市制施行 100 周年記念事業として「つながり　ひろがる未来豊橋を全国にアピールしよう」を合い言葉に、中学校の教員はもとより小学校の教員、愛知県・豊橋市教育委員会関係者、愛知県及び豊橋ハンドボール協会、関係団体等のご支援を得ながら総力を挙げて取り組みました。

開会式当日の不安定な天候、激しい雷雨は、選手・役員の皆さんだけでなく、地元の関係者である我々ですら経験したことのないものでした。2 度の停電により体育館の照明が消えるなど思わぬハプニングもありましたが、体育館職員の方々や競技役員の機敏な対応により、予定通り無事に開会式を終えることができました。

◯多くの人の協力による大会運営

大会運営面においての最大の課題は、少人数のハンドボール専門部における競技役員の確保でした。試合を進行する上では、どうしてもハンドボール競技に携わった方々の協力が不可欠なため、県内中学校をはじめ高校のハンドボール関係の先生方にもご協力をいただき、運営することができました。また、試合以外の裏方の部分での仕事に関しては、豊橋市内の小中学校の多くの先生方のご協力をいただきました。全国大会の運営に参加することは貴重な機会であり、競技役員を快く引き受けていただきました。特に激しい雷雨の中で駐車場警備を担当していただいた先生方、本当にお疲れ様でした。

写真提供・スポーツイベント社

写真提供・スポーツイベント社

さらに忘れてならないのは豊橋市内の中学校のハンドボール部員や豊橋南部中学校・南陽中学校吹奏楽部の生徒たちの活躍でした。開会式の演奏やプラカード保持、介添えや誘導係、そして受付・記録等様々な仕事をそれぞれが責任をもって果たしてくれました。会場へ来られたお客さんや選手・役員の皆さんへの誠意ある応対と気持ちのよい挨拶・笑顔に、数多くのお褒めの言葉をいただきました。このように大会期間中、競技役員・補助員としてご協力をいただいた皆さんの活躍は、円滑な大会運営のための大きな要素となりました。

そして、毎年の全国大会運営を支えていただいている競技部長の佐々木先生をはじめとする各ブロック長の先生方には、我々実行委員会では気づかない様々な視点から、選手を第一に考えたご助言・ご指導をいただけたことも、心強い味方であり大変助かりました。

◯大会開催と今後の課題

本大会は我々実行委員会だけでは決して運営できる規模ではなく、出場する 3 年生にとっては、3 年間の最後を飾る最大の大会です。選手の皆さんに持てる力の全てを出し切ってもらうために努力しましたが、ご迷惑をおかけした部分もあったのではないかと思っています。十分なスペースのある練習会場を準備できなかったことや練習会場割当が各チームの希望に添えなかったこと、豊橋市総合体育館と練習会場や宿泊ホテルが離れており、選手・学校関係者・保護者の皆様の交通手段などは今後の課題として残りました。

この全国大会を運営させていただいて、あらためて選手をはじめ監督・コーチ、チーム関係者の皆さんのハンドボールに対する情熱に感動しました。また、選手の皆さんの開会式での力強い入場行進。見事優勝の栄冠を勝ち取った茨城県けやき台中学校（男子）、東京都東久留米西中学校（女子）のスピードあるすばらしいプレー、優勝した瞬間の歓喜あふれる笑顔と涙に大会運営をした全ての関係者が感動しました。

末筆ではありますが、今大会を運営する上でお世話になった大会関係者、選手・監督の皆様、そして遠方より応援に駆けつけていただいた学校関係者・保護者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

男子優勝チームの声

全員の心を一つに、初優勝！　一球同心で努力した結晶

茨城県：守谷市立けやき台中学校監督　増田　徹

写真提供・スポーツイベント社

念願の優勝は昨年の悔しさを忘れることなく精一杯努力してきた選手たちが勝ち取った最高の結果です。選手はもちろんのこと、選手たちを温かく支えてくれた保護者、学校、そして地域の方々やハンドボール関係の方々に心より感謝とお礼を申し上げます。けやき台中ハンドボール部は今年で創部 15 年目。６年連続７回目の全国大会出場でした。その間には目標まで手が届かないまま敗れ、悔し涙で会場を後にした先輩たちがいます。その先輩たちの思いや願いが引き継がれ、良い伝統が培われたのだと思います。「全国でてっぺんを目指す」言葉で言うのは簡単ですが、ここまでは長い道のりでした。選手たちはひとりひとり熱き心をもって愛知の地を目標に日々練習し、苦しい関東大会を勝ち抜き、全国大会でも一戦一戦全力を出し切りました。

今大会で対戦した２回戦の長崎県「日吉中」、３回戦香川県「香川第一中」、そして苦しい戦いを強いられた準決勝は愛知県「平針中」、決勝で素晴らしいプレーを見せた大分県「植田西中」。どの選手も素晴らしく、よくまとまったチームばかりでした。けやき台中の勝因は？と聞かれたら、主将三富君を中心にして選手全員がよくまとまり、決してあきらめず、練習してきたことを最後までやり通そうと粘り強くプレーできたことかと思います。全員の力がひとつにまとまり大きな歯車となって戦うことで勝ち上がることができたのだと思います。活躍した選手はコートに立つ７名だけでなくベンチにいる８名、そして応援席での 10 名です。

写真提供・スポーツイベント社

選手たちはこの貴重な体験を通してさらに大きく成長してくれたことと思います。私自身、この結果に満足することなく、さらに生徒とともに学び、成長し、熱き心を忘れず挑戦していきたいと思います。

本大会を陰に陽にと支え、盛り上げてくださった愛知県ハンドボール関係者の皆様、役員、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

チーム提供写真

女子優勝チームの声

たくさんの方々の応援に感謝！

東京都：東久留米市立西中学校監督　尾石 智洋

写真提供・スポーツイベント社

第34回全国中学校ハンドボール大会において、優勝でき感無量です。こんな思いができたのは、少数ながらチームを引っ張った3年生（宮腰・前田・龍田・染谷・床井）の頑張りが大きかったと思います。上級生としての厳しさと、優しさを考え日々の練習を行ってくれました。また、ライバルとしていつも一緒に練習してきた杉並区中瀬中の存在も大きかったです。今回、一番厳しかったゲームも都大会決勝でした。また、地域の応援にも恵まれすばらしい環境の中でおもいっきりハンドボールに打ち込めたことを感謝しています。

今回チームの戦術面で特に考えていたことは、昨年のJOCの代表者会議でも言われていましたが、スピードに対する対応でした。体格があるに超したことはありませんが、無いものはしょうがないので、そこで工夫してきました。全国大会ではよく足が動きました。元気に走っている姿を見ることができました。決勝戦の相手、上中学校は特に長身のチームで、ミドルシュートをかなり覚悟していました。取られても取り返す、気持ちを前向きに持たせ、また、練習通りのプレーに心がけ自分たちのペースに持ち込むことができました。フローターの千葉・笠木を中心に展開ができ、龍田も体を張ってシュートに飛び込み、全身を使って前田が止めてくれました。そして、1、2年生がこの精神を引き継ぎ、来年もこの舞台に立ちたいです。

写真提供・スポーツイベント社

最後になりましたが、大会を支えて下さった愛知県ハンドボール関係者、役員、スタッフの方々、本当にありがとうございました。さすが、愛知県のハンドボールにかける思いが、様々なところで感じることができました。すばらしい運営でした。

また、私をハンドボールの道に導いて下さった田中先生、報告させていただいたとき、先生が涙を流して喜んでくれて私は幸せ者だと思いました。ありがとうございました。

これからも、日々頑張っていきたいと思います。

チーム提供写真：8月31日に開催された東久留米市主催の祝賀会。上段右から4人目が野崎重弥市長。

第18回全国小学生大会

男子：美里町立中央小学校（熊本県）
女子：京田辺市立松井ヶ丘小学校（京都府）

共に初優勝、悲願の全国優勝を飾る

写真提供・スポーツイベント社

標記大会が7月29日～31日まで、京都府京田辺市を会場に開催された。同大会は京都国体を記念して毎年開催され、小学生ハンドボーラーのメッカとなっている。男子は昨年の大会で1点差で涙をのんだ美里町立中央小学校（熊本県）が、女子は地元・京都代表の京田辺市立松井ケ丘小学校が、それぞれ初の全国優勝を成し遂げた。今号では地元主催者、男女優勝チームの声をお届けいたします。
なお、大会結果につきましてはスコアールーム②（本号p. 24）に掲載いたします。

全国小学生ハンドボール大会に想う

京都府ハンドボール協会理事長　大羽　隆夫

国体2巡目となる京都国体が開催された年に、ハンドボールの裾野を広げるために始まった大会。早いもので今年、18回目を迎ました。この大会は地元京田辺市（当時は田辺市）の多くの方々の絶大なる協力を得て、すばらしい大会に成長してきました（京都インターハイの開催された平成9年のみ滋賀県開催)。

私も様々な形でこの大会の運営に参加してきました。18回目を迎えるまでには様々なことがありました。当初は、「とにかくハンドボールを知ってもらおう」、「ハンドボールを好きになってもらおう」、といった思いの強い大会でした。初心者と思われる子どもたちにレフェリーがルールを教えながら試合を進めるということも当たり前のような状態でした。

しかし、現在では参加するチーム数も増え、予選大会を開催する府県も多くなってきました。必然的に選手達のプレーもレベルアップし、熱のこもった好プレーが展開されています。

写真提供・スポーツイベント社

また、この大会を経験したプレーヤーの多くがその後もハンドボールプレーヤーとして活躍し、球界をリードする存在となってくれています。当時、小学生とは思えないようなプレーに体育館がどよめいたのを昨日のように覚えています。今後も日本を代表して世界的な活躍をしてくれるものと確信しています。

写真提供・スポーツイベント社

本大会は試合である以上、勝者と敗者が生まれます。健闘むなしく敗れたプレーヤーの目に光るものを見て、大会関係者も胸が熱くなります。大会運営の難しさや苦労が報われる瞬間です。

京田辺市のチームも頂点を目指し、日々の練習を欠かしていません。これは地元の理解と協力が得られて初めて可能となるものです。その甲斐あって、過去18回の大会においても、京都チームは常に上位進出を果たしており、本大会が盛り上がる要因を作り出しています。

私が理事長に就任した初年度である今大会に、地元京都、京田辺市の女子チームが優勝してくれたことは感無量です。今までの苦労が報われた思いです。

大会とは、個人の力で運営できるものではありません。京都府ハンドボール協会の理事のみならず、地元の方々の理解と協力。当日の運営を補助してくれる中学・高校生の皆さん。その他、多くの皆さんのおかげで大会は成り立っています。ここに心から感謝の意を表します。そして、今後もより一層のご協力を賜り、本大会が子ども達の夢実現の場となるよう尽力して参ります。

そして、全国小学生の皆さん、来年も京田辺市でお待ちしています。

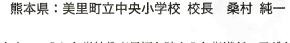
男子優勝チーム

チームワークで勝ち取った優勝

熊本県：美里町立中央小学校 校長　桑村 純一

本校は、学力と豊かな心の育成を大きな２本の柱にして、勉強や学校行事、委員会等に日々励み、全児童が元気に学校生活を送っています。

ハンドボール部は、このような環境の中で日々練習に励んできました。部員は４・５・６年生で現在 29 名が所属しています。ハンドボール部はこれまでも県大会等で活躍しており､それにあこがれて入部する子どもも多くいます。練習時間が特に長いというわけではなく、他の部活動と練習時間は同じです。また練習がハードかというとそうでもなく、のびのびした練習です。こんな練習風景を見ていると、伝統の力を感じたりもします。

監督をはじめコーチには､「学習・生徒指導が一番」をモットーに指導に携わっていただいています。こうした学校教育目標を踏まえた指導が、子どもたちを育てているのだと考えています。

本年度は、これらの成果が発揮され、第 18 回全国小学生ハンドボール大会で見事優勝することができました。これまでに準優勝はありましたが､優勝は初めての快挙です。これも、子どもたちが日々の練習で体力、技、スピードを培ってきたからであり、また、監督やコーチの指導を素直に受け入れる人間性が育っていたからと信じます。

今後も、選手の皆さんの「知・徳・体」の調和のとれた成長を見守っていきたいと思います。

チーム提供写真

「我武者羅」精神で臨む

熊本県：美里町立中央小学校ハンドボール部　監督　舛田 真一

中央小学校ハンドボール部の監督となって２年目になります。昨年に続き２年連続の出場となりますが、昨年は決勝で沖縄の神森小学校に１点差で敗れ、悔し涙を流しました。「1 点の重み」をいやというほど感じた１年で、今年こそは全国制覇を目標に一生懸命練習を重ねてきました｡チームづくりのなかで子どもたちには、ハンドボールの練習以外でも、日頃の学校生活の在り方、あいさつ、礼儀、コート整備、感謝の心など、いろんなことを話してきましたし、子どもたちはそれによく応えてきたと思います。そうして成し遂げた優勝の喜びは本当にうれしいものでした。

準々決勝の木田ブルーロケッツ戦は、残り十数秒で西崎洋平君が勝ち越し点を上げる厳しい試合でした。準決勝の薪戦では、中央小学校らしいディフェンスが機能しました。決勝の宮城戦では、後半２点差まで詰め寄られましたが、粘り強いゲーム運びができました。まさに監督、コーチ、選手はもとより、保護者も一丸となってつかんだ優勝でした。また、大会を通じて、キャプテンの濱田槙人君を中心に選手達もあらゆる面で一回りも二回りも成長することのできた大会だったと思います。さらに今後も日々の練習に励み、「我武者羅」精神で次の目標に向かっていきたいと思います。

写真提供・スポーツイベント社

夢が現実になる！

熊本県：美里町立中央小学校ハンドボール部主将　濱田 槙人

今年は昨年に引き続き、２年連続の出場となりました。昨年は、決勝で、しかも１点差で敗れ、今年こそは「全国制覇」を目標に大会に臨みました。

準々決勝の木田ブルーロケッツ戦では、苦しい展開でしたが、終了間際に１点を奪い、中央小学校のリズムを取り戻すことができました。決勝の宮城戦では、後半追い上げられたものの、「ぜったいみんなで全国制覇するぞ」という気持ちで今まで練習してきたことを出し切り、ついに優勝をつかむことができました。夢が実現できて本当にうれしかったです。

ここまでこれたのも、たくさんの方々の温かい応援があってのことと感謝しています。今後も、全国制覇したことを誇りに、さらに全力で頑張っていきたいと思います。

女子優勝チーム

ハンドボールを通して育ったネバーギブアップの心

京都府：京田辺市立松井ヶ丘小学校 校長　杉山　武

本校は、昭和54年、市内で７番目に創立され、本年度で27年になります。一時は100人程度の児童数になりましたが、近年、校区では住宅開発が進み、毎年、児童数が増加し、本年度は600人を超え、市内最大の小学校になりました。

ハンドボールクラブには、３年生以上で男女、合わせて100名近くの児童が活動しています。数年前までは、市内９校のうち中位程度の成績でありましたが、平成15年に初めて、全国大会に男女とも出場し、女子が準優勝、男子が三位というすばらしい結果を残しました。16年にも全国大会に男女とも出場し、男子が三位、女子がベスト８の成績を収め、この２年間の大きな成果の上に立って、今年度、見事、女子が念願の全国大会優勝の栄冠を勝ち取ることができました。選手たちのがんばりはいうまでもなく、顧問、コーチの熱心な指導、父兄の皆さんの大きな支え、応援の賜物であります。

ハンドボール競技は学校教育活動にさまざまな面で相乗効果をもたらし、学校の活性化に大きく寄与しているところです。選手たちも今回の全国制覇を通して、心身ともに一回りも二回りも成長してくれました。　特に、最後まであきらめない、ネバーギブアップの気持ちを強くもってくれたように思います。

最後に、今後とも、勝利至上主義に陥ることなく、更なる健全なハンドボール活動に努め、充実を図っていきますので、御支援、御協力をよろしく御願いいたします。

一戦一戦を経験して成長した選手達

京都府：京田辺市立松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ女子チーム監督　西城 誠一

京田辺市でハンドボールを指導するようになって17年目、松井ヶ丘で４年目になりますが、今年度は転勤したことにより、平日はコーチに練習を指導してもらい、自分自身は土曜日の練習を子供たちと共にしてきました。

全国大会に向けてのあゆみは決して平坦ではなく、京都府大会では、怪我や体調不良等で満足に練習ができない状態が続いた中、強豪チームを相手に苦戦しながらようやく全国大会の切符を手にすることができました。

全国大会を迎えても、予選から強豪チームとの対戦が続き、一戦一戦を何とか勝ち抜いていくことがやっとの状態でした。そんな中でヤマ場になった試合というのが、優勝候補の筆頭である名将・竹内監督率いる富山県の上庄ハンドボールクラブとの準々決勝の一戦です。序盤から互いに一歩も引かない試合展開で、ノータイム寸前には同点となり延長戦に突入しました。結果的には延長戦を制することができ３日目に駒を進めることができた訳ですが、試合中に何度逆転されても決してナーバスにならず、声を切らさず攻守に懸命に動く選手の姿に並々ならぬメンタル面の強さを感じました。準々決勝の試合で得た選手の自信は予想以上に大きく、怪我や疲れがピークになっているはずの３日目を最高のモチベーションで迎えることができました。決勝戦は、選手達がめざしてきた夢の舞台でもあるので、選手を信頼して戦術については最低限の確認だけにとどめ、「リスクを恐れず試合を楽しもう！」という点を強調

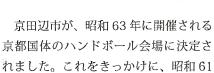
チーム提供写真

し、「思い切り暴れて来い！」とコートに送り出しました。ロースコアの接戦も想定していたので前半を７－１で折り返すことができたのは意外でした。前半の貯金がなければ、相手チームの知将から繰り出される戦術に、後半はもっと苦しめられたことと思います。

今回、選手達が「全国制覇」という偉業を成し遂げることができたのは、組織的なディフェンスと持ち前のスピードを生かした攻撃ができた事以外に、一戦一戦を経験して成長できた事とどんな情況でも決して弱音を吐かずに諦めずプレーした選手一人一人のメンタル面の強さにあったように感じています。

最後になりましたが、選手をサポートして下さった地域や保護者の方をはじめ、いつも一緒に練習してくれた男子チーム、日頃から技術指導やメンタル面のフォローをして下さったコーチやマネージャー、多くの先生方に心から感謝申し上げたいと思います。

ベンチに伝わった“絶対に勝ちたい！！”気持ち

京都府：京田辺市立松井ヶ丘小学校ハンドボールチーム顧問　今井 道則

京田辺市が、昭和63年に開催される京都国体のハンドボール会場に決定されました。これをきっかけに、昭和61年から市内９小学校でハンドボール教室が教育委員会主催で開催されるようになり、ハンドボール競技が急速に普及していきました。全国大会は今年で18回目を数えます。実は私も、たしか第３回大会だと思うのですか、全国大会を経験しております。子ども達とハンドボールをしていて時々当時を思い起こすのですが、現在の小学生ハンドボールのレベルに驚くばかりです。

さて、今回の女子チームの全国優勝ですが、本当に予期せぬ結果でした。優勝も嬉しかったですが、ベンチから見ていて試合を重ねるごとに、彼女達の“絶対に勝ちたい!!”という強い気持ちが感じられる試合をしてくれたことが、私は一番嬉しかったですし、胸にぐっとくるものがありました。彼女達は５年生の時から、保護者の方々を含め、たくさんの先生やコーチ陣に支えられてきたように感じます。その方々に対する感謝の気持ちをいつまでも忘れず、今後も“強い気持ち”でプレーして欲しいと、今は願うばかりです。

みんながひとつになって

京都府：京田辺市立松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ６年女子キャプテン　浜本 由里

私達松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ女子は全国大会に３年連続３度目の出場、そして今年は初めての「全国制覇」をすることができました。この優勝は開催地、本州勢では初めてのことでした。京都府大会で私達が勝ったことで全国に行けなくなった京都でのライバル校である田辺東小学校のみんなが「全国でぜったい優勝してきてや！」と笑顔で応援してくれたことがとても励みになりました。

全国大会では、どの試合もみんながそれぞれの力を発揮できて良い試合ができたと思います。特に、延長戦になった準々決勝での上庄ハンドボールクラブ（富山県）との試合は印象に残っています。そして、決勝の玉名町小学校（熊本県）戦では、西城監督から「思いっきり暴れてこい」と言ってもらい、その言葉通り自分たちのハンドボールができたと思います。優勝が決まった時はみんなで抱き合い喜びました。

私達が優勝できたのは、チームのみんながひとつになってハンドボールをできたからだと思います。そして、監督、コーチ、マネージャー、両親、多くの人に支えてもらったおかげだと思います。これからもチームのみんなと力を合わせてがんばっていきたいです。

写真提供・スポーツイベント社

第15回女子ジュニア世界選手権（U-20）

ヨーロッパ・アフリカ勢に3勝
次に繋がれ、価値ある第10位

標記大会が、2005年8月1日（月）～8月14日（日）、チェコ共和国を会場に開催されました。日本チームは昨年のアジア女子ジュニア選手権（2004年7月）で2位となり、今回の出場権を獲得しました。大会は5チーム総当たりによる予選ラウンド（大会は20ヶ国が参加、1リーグ5チームの4リーグで行われた）、上位3チームが決勝ラウンドに進みます。決勝ラウンドは2リーグに分かれ総当たり、予選ラウンドの結果を含み順位を決定。日本は決勝ラウンド5位で、9月号既報のように順位決勝戦でブラジルに敗れ10位でした。しかしながらヨーロッパ・アフリカ勢3チームを破る善戦、しかも予選リーグでは地元チェコを破る大金星を挙げました。今号では市原団長、蒲生副団長、東江ヘッドコーチの報告と併せ、役員・選手団名簿、日本チームの戦いについて掲載致します。

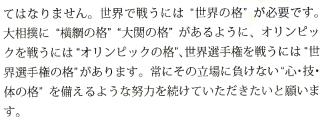
世界トップを目指し"格"あるチームへ

団長　市原 則之（(財)日本ハンドボール協会副会長）

今回チェコで行われた、第15回世界女子ジュニア選手権大会に団長として参加致しました。途中からトルコ国イズミル市で開催されている第23回ユニバーシアード競技大会出場日本選手団激励のため、全日程をチームと共に行動できず大変残念ではありましたが、日の丸をつけた若い女子選手が小気味よくコート上を走り回り、本場ヨーロッパで大きな声援を受けている姿に感動を覚えました。また、外国の強豪3チームを破り、予選リーグをも突破、しかも地元チェコを破って本戦への勝ち上がりは見事で、成績は10位ながらも特筆すべきものでした。選手並びにスタッフの皆様に心からの敬意と感謝を申し上げます。

日本選手のプレーは実にトリッキーで、技術に富み、頭脳プレーを駆使して素早く動き回って点をとる姿は、多くの観客に感動を与え、盛大な拍手を受けて大会を大いに盛り上げました。しかしながら、選手の皆さんはこの内容と成績に満足してはいけません。ジュニアの世界大会はビックな大会ではありますが、これは"ゴール"ではなく、あくまでも"プロセス"なのです。

日本ハンドボール協会は、ナショナルチームがオリンピックや世界選手権に常時出場し、世界の高いステージで日本選手が何時も活躍している状態を志向しています。

そのためには、各階層の日本代表選手はそのレベルに応じた"格"を身に着けなくてはなりません。世界で戦うには"世界の格"が必要です。大相撲に"横綱の格""大関の格"があるように、オリンピックを戦うには"オリンピックの格"、世界選手権を戦うには"世界選手権の格"があります。常にその立場に負けない"心・技・体の格"を備えるような努力を続けていただきたいと願います。

怪我の多い選手は"身体の格"が備わっていません。それは、怪我をしない基礎体力トレーニング欠けているように感じられます。体力トレーニングには身体的苦痛がつきものですが、身体的苦痛を克服すれば「がまん」という精神力は自然に養われます。せっかくのＮＴＳという素晴らしいシステムも、怪我人ばかりでは実効は上がりません。今一度、選手も指導者も原点に帰ろうではありませんか。近い将来、世界を制覇するために。

最後になりましたが、当大会に参加するに当たり、選手を育て、送り出していただきました多くの関係者の方々に対し、心からの感謝を申し上げます。また、今後に於きましても従来に増して格段のご指導、ご支援を頂きますよう合わせてお願い申し上げます。

歴史に残る勝利と見えてきた課題

副団長　蒲生晴明（(財)日本ハンドボール協会常務理事・強化本部長）

はじめに

ジュニアの世界選手権の目的は国際交流と国際経験を積むことにあり、若い時期の諸外国での交流と経験は効果大と考える。今回のチームは緊張とリラックスを持ち、飄々として、淡々とプレーできたと思う。地元チェコを激戦の上、見事に破っての予選突破は、歴史に残る勝利であり、IHF関係者からも、高い評価をいただいた。

大会直前調整

現地に入る前に、強化トレーニングとしてスロバキアにて、最終調整。２試合のトレーニングゲームを実施したが、相手はシニアチームでありスロバキアとハンガリーのチャンピオンチームであった。内容は、アグレッシブなDF戦術が功を奏し、FBでの得点などバランス良く、対等以上に勝負できていた。若い選手達には、大変大きな自信に繋がった。

7/29：日本	21	（ 9-14, 12-12）	26	SALA
7/30：日本	31	（15-17, 16-15）	32	Gyor

結果に対する評価

各国ともにタレントの発掘育成が進んでいるため、日本でも若年層に発掘育成強化は不可欠と考えられる。国際経験を重ねることによる自信の蓄積ができており、各国選手との交流を通して、不安の解消ができたことは今後の大きな財産であろう。また、若年層が世界のジャッジメントを体験できたことも大きい。戦略・戦術は、見事に実現でき成功したが、体格･体力面の補強（分かっているが､実行できていない）は、従来からの課題だがクリアできていないのが現実である。

大会運営

若いチェコ協会会長が、新しいアイデアを持ってリーダーシップをとり、TV・新聞記者などマスコミにアピールしながらハンドボール競技のポピュラー化を図っていた｡大会は、大変若く少人数で運営されていた。問題も発生するが対応も素早かった。

ホテルは、避暑地の３星で、部屋のグレードならびに食事ともに問題なかった。毎日のフルーツは、好評であった。移動については、バスで行っていたが時間に厳しく、他チームとの乗り合いだったり、試合や練習後、即刻帰るような余裕のない管理であった。セキュリティとチームの処遇は、何ら問題はなく、空港での送り迎えは、特別な扱いはなかった。通訳兼ガイドは､特に問題なくフルサポートしてくれた。IHF役員が、全てのゲームについて完璧に管理していた。

日本選手団役員の人選と役割実績

日本チームの役員は団長１名（選手団統括・IHFとの連絡決裁）、副団長１名（統括補助・会議へ出席・レセプション出席・IHFとOCとの連絡・スケジュール管理など決裁）、ヘッドコーチ１名（選手掌握とチーム＆ゲーム管理運営）、コーチ１名（トレーニング準備と実践）、GKコーチ１名（GKトレーニングと総務全般と通訳）、ドクター１名(怪我予防･処置とドーピング付き添い）、トレーナー１名（コンディション調整とマッサージ・テーピング・食事水分補給など）で構成された。

日本の課題

いつも言われている事であるが、体格が小さい、筋力・パワー不足、ゲームスタミナ不足、怪我に弱い、基本技術・戦術面が、未熟、選手の国際試合の経験不足、監督・コーチの国際経験不足、ジャッジメントの違いに戸惑うなどが挙げられる。そのためには、世界の流れをつかみ、それに向けての今後のアンダー強化が必要である。女子の世界各国は大型プレーヤーが揃っており､戦術のバリエーションも豊富である。1対1、２対２のコンタクト後のプレイが巧みであり、上位チームは、速攻での得点が多い。南米・アフリカが、著しい成長しており、アジアの韓国、中国の競技力も安定している。

今後世界で活躍をするための課題として以下のことが考えられる。

1、世界の流れについて行ける様に、外国人コーチの利用と強化合宿増加
2、日本リーグ・大学・高校などトップ指導者の育成
3、選手・コーチの海外留学等や国際試合増加
4、NTSからのタレント発掘育成

まとめ

今回、女子ジュニアチームは、目標を見事にクリアした。特に、地元チェコとの、予選リーグ最終戦での後半８点差のアヘッドを残り１秒で大逆転した底力は､充分評価できる。

メインラウンドでも、ウクライナに勝ち、ヨーロッパ勢に２勝できた事が、IHF関係者からも称賛された。若い世代が世界を体験でき、それも成功体験であって、従来とは異なる結果である。スタッフの雰囲気造りが功を奏し、選手達の自主性と主体的な行動がゲームに顕著に現れていた。この中から、日本代表選手が育成されるように強化活動を止めてはならず、空白期間があってはならない！

いつもながら、所属チームはじめ協会関係の皆様のご支援に感謝いたします。

チーム日本として一体となり
戦えたことが今回の結果

確実に世界へ近づいている

ヘッドコーチ　東江正作

はじめに

４月からこのチームを指揮することになり世界で戦うために必要なものは何かと考えたところ方向性として次の２点に集約しました。①「選手自ら考え、行動する」、②「コートの中で100%ファイトする」。

戦術として①オフェンスは強いたての攻めからワイドな位

置取り、パラレル、ポジションチェンジ、システムチェンジで継続的に攻める、②ディフェンスでは高い位置でコンタクトしクロスアタックで余裕を与えない、③速攻は一次、二次、三次と継続して仕掛ける。

そして大会の数値目標として掲げたのは、ハードルを高く世界トップ10入りでした。

事前合宿から大会へ

大会までの準備期間として、6月、7月に各5日間の計10日間国内合宿でシステムの理解と確認の後、スロバキアで4日間の直前合宿を行い、コンディション調整とトレーニングマッチでシステム確認と修正を行いました。

8月1日（月）いよいよ世界選手権開幕、予選ラウンドオープニングゲームで強豪ハンガリーと対戦し24－42と完敗。直前合宿においてハンガリーの国内チャンピオンチームとトレーニングマッチで31－32と惜敗、多少自身を持って臨んだだけにショックは大きかった。敗戦の中でも取り組んできたステップシュートが効果的であったのがこれからの戦いのヒントとなった。

2日(火)セルビア・モンテネグロ戦は前日の敗戦を教訓に、システムの徹底を行い、ポジションチェンジの瞬間にシステムチェンジで攻めることの意思統一を図った。

絶えず1点を争うゲームとなったが残り5分でミスを連発し一気に離され27－37で敗戦。

3日（水）はゲームがなく、これまでの戦いを整理することができ、4日（木）のチュニジア戦に臨めた。目標達成するには絶対勝たないといけないゲームで、DFシステムでは5プラス1とクロスアタックを併用。OFはこれまでのシステムに手渡しを多用し、ゲームテンポもアップからスローへ変更。これらが奏効し27－23で嬉しい初勝利をあげる事ができました。

メインラウンド進出をかけて

6日（土）メインラウンドへ進出するにはどうしても負けられない相手、しかも地元チェコで完全なアウェー、勝たなくてはならないプレッシャーから大事に行き過ぎ、前を狙わず形だけの攻めとなり前半を9－14、前半の反省を踏まえ再度意思統一を図り後半を迎えたが、ミスから3連取され最大8点のビハインドを負う。ここから負けたくない気持ちとプレイが噛み合い出し、積極的にシュートを狙い徐々に差を詰め、相手退場時の数的有利な状況における攻防も機能し同点とする。残り33秒作戦タイムで手渡しからの展開を指示、残り3秒カットインシュートで勝ち越しと思われた瞬間、不可解なフリースローの判定、しかし選手は冷静に対応し、センター石立の判断でフリースローから石立をスルーし大城へパスを飛ばしカットイン、これが見事決まり正真正銘のゴールインとなり26－25で歓喜の大逆転勝利を収めメインラウンド進出を決める。

メインラウンド

8日（月）メインラウンド初戦はポーランド、大型選手の特長を生かした攻撃で、強引に突破されてしまう。一進一退の攻防が続いていたが、要所でテクニカルミスが出て31－38で敗戦。

9日（火）韓国戦はチーム、個人として完成度が高い相手に戦いを挑まなければならないゲームの難しさを実感しました。5－0リードから韓国がDFシステムを高い位置から低くしたことにより攻め倦みミスを速攻に持っていかれ17－28で敗戦。

10日（水）ウクライナ戦はトップ10入りには是が非でも勝たないといけない相手である。そのための準備として、分析を徹底して行い、選手へフィードバックしトレーニングで確認作業を行いゲームへ臨んだ。これまで何度も厳しい状況を経験してきた選手たちは、スタートから積極的なプレイを仕掛け11－10の1点リードで折り返す。後半は見事な集中力で4連取しゲームを支配する。攻めの姿勢を貫き、終始落ち着いたゲーム運びで会心の勝利を収め目標達成したが9位決定戦進出で一桁入りに目標修正。

9-10位決定戦

13日（土）9位決定戦はブラジルが相手で、高い身体能力とフィジカルの強さで日本チームがもっとも苦手とするタイプである。しかし臆することなく果敢にチャレンジし一進一退でリードする場面も何度かあったが、テクニカルミスから逆に相手に得点され24－30と敗れ一桁入りは成らなかった。

常に極限の緊張感の中での戦いで、ゲーム運び、OF、DFにおける独創性が発揮されゲームを重ねていくたびに選手が逞しく成長しているのが実感できました。ヨーロッパの関係者や対戦相手国のスタッフから「日本は強い」と言われた事は誇りに思います。

終わりに

NTSがスタートして6年目、形態的に世界基準にはまだまだ及ばないが、戦術トレーニングの習熟度やナショナリズム等確実に世界へ近づいているのではないでしょうか。

この大会は、市原団長の心温まる叱咤激励、なによりも物の見方、考え方の懐の深さは勉強になりました。蒲生副団長は直前合宿からフル帯同して頂き、通訳や戦術面のアドバイス、チームの雰囲気を作って頂き大変心強いサポートをしてもらいました。そして選手を快く送り出してもらいました所属チームの監督の方々に対し心より感謝申し上げます。

このようにわれわれ選手、スタッフだけでは成しえなかったが、チーム日本として一体となり戦えたことが今回の結果だと確信しています。

最後になりましたが、世界で戦うことの困難さに身をもって経験したことを生かして、日本ハンドボール界の競技力向上に微力ながら協力していく所存です。

日本チーム戦いの記録

◆予選ラウンド第１戦（8月1日（月））

●日　本　24（7-21, 17-21）42　ハンガリー
（１敗）　　　　　　　　　　（１勝）

Ｄグループオープニングとなったこの試合、下地の好キープから石立、大城が速攻で得点し、山下裕のポストプレーで加点した。両チームとも固さからミスが多く得点が伸びなかったが、前半16分過ぎから固さのとれたハンガリーは怒涛の攻めで一気に日本を突き放した。後半立ち上がり、大城が7mスローを決め、肩の力がとれたのか、山下詩のサイドシュート、大城・石立のステップシュート、カットインで得点をあげていった。しかしハンガリーの多彩な攻撃を阻むことは出来ず、前半の得点差を詰めることができなかった。

[得点]大城８，山下詩・石立５，吉田・山下裕・内平・横嶋・野路・佐師１

◆予選ラウンド第２戦（8月2日（火））

●日　本 27（13-18, 14-19）37 セルビア・モンテネグロ
（２敗）　　　　　　　　　　（１勝）

180cmを超える長身選手が５名いる相手は、6-0ディフェンスで日本に対応してきた。序盤相手の大きさに戸惑いはあったが、よく守り、山下詩の連続速攻で3-1とリードする。その後もバックプレーヤー陣がステップシュート、カットインで加点し、１点を争うゲームとなった。残り５分、由田の退場から一気に３連取され、５点差で前半を終了する。後半、野路・山下詩の速攻、荒木のサイドシュートで中盤２点差まで追い上げる。ここから大城、石立のステップシュートなどで加点し、一進一退の展開となる。残り７分からテクニカルミスを速攻に持ち込まれるなどして、一気に離された。残り５分の戦い方に大きな課題を残した。

[得点]石立６，山下詩・大城５，荒木３，野路・内平・小松２，吉田・横嶋１

◆予選ラウンド第３戦（8月4日（木））

○日　本　27（13-13, 14-10）23　チュニジア
（１勝２敗）　　　　　　　　（３敗）

180cmを超える強烈なバックプレーヤーをもつチュニジア。５－１ディフェンスのトップを守る横嶋の読みが冴え、強力なバックプレーヤーになかなかシュートを打たせない。日本はオフェンスの展開もよく、再三ノーマークのチャンスを作るが、ゴールポストに嫌われるなど、なかなか突き放せないまま同点で前半終了。後半立ち上がり、石立のミドルシュート、細木の7mスロー、佐師の速攻で一気に突き放した。その後はペースをしっかり守り、終盤少し追い上げられたが、GK下地のファインセーブもあり、会心の勝利を収めた。

[得点]石立・大城６，山下詩５，山下裕・荒木・細木２，小松・横嶋・野路・佐師１

◆予選ラウンド第４戦（8月6日（土））

○日　本　26（9-14, 17-11）25　チェコ
（２勝２敗）　　　　　　　　（１勝３敗）

＊日本、予選リーグＤグループ３位、決勝ラウンド進出

共に１勝２敗、日本は得失点の関係で勝たなければ決勝ラウンドに進出できない試合。地元・チェコサポーターの大声援の中でのゲームが始まった。立ち上がり日本は大事にプレーしようとすることが裏目となり、少し消極的なプレーを繰り返す。野路、佐師のシュートでくらいついていくが、中盤からチェコにペースを握られ、５点差で前半終了。後半も立ち上がり３連取され、さらに苦しい展開となった。ここからフローター陣の縦への攻めが強くなり、石立のジャンプシュート、吉田、山下裕のポストシュートで差を詰めていった。終盤、相手の退場を機に課題だった数的優位な状況での攻防がうまく機能し、大城の7mスローで同点とした。残り３秒、石立のカットインシュートで勝ったと思われたがなぜか審判がフリースローの判定。フリースローから大城がカットインシュートを決め、大逆転で歓喜の瞬間を迎えた。

[得点]石立５，山下裕・大城・野路４，山下詩３，吉田・小松・佐師２

◆決勝ラウンド：II－Hグループ（8月8日（月））

※決勝ラウンドでは予選ラウンドの対戦成績が加算されるため日本チームは２敗からのスタート

●日　本　31（16-18, 15-20）38　ポーランド
（３敗）　　　　　　　　　　（２勝１敗）

大柄な選手を揃えるポーランドに序盤、プレスディフェンスをしかけるが、コンタクトした後振り切られ、５点差まで離される。ここからクロスアタックディフェンスにし、相手のテクニカルミスを誘い、大城、佐師の速攻で徐々に差をつめていく。25分、相手の退場を機に15－15に追いつくが、最後にミスから走られ２点差で前半を終了。

大城のステップシュート、カットイン、石立のカットインなどで、後半10分同点とした。中盤の勝負どころでのテクニカルミスもあり、ここからポーランドバックプレーヤーの体を活かした強引なカットインを再三許してしまう。日本も大城のステップシュート、速攻、カットインと多彩な個人技で健闘した。チームとしては今大会最高の31得点をあげたが、相手のバッ

クプレーヤーのコンタクトプレーで退場を誘われるなど、差を詰めることができなかった。

[得点] 大城12，石立5，山下詩4，荒木・野路・佐師3，山下裕1

◆決勝ラウンド：Ⅱ－Hグループ（8月9日（火））

●日　本　17（9-13, 8-15）28　韓　国
（4敗）　　　　　　　　　　（4勝）

１－５ディフェンスの韓国に対し、サイドシュート、カットイン、ポストとバランスよく得点した。韓国のミスもあって、８分までに５－０とリード。ここから韓国のディフェンスはやや引き気味に守る。怪我で万全でないフローター陣が引き気味のディフェンスを攻めきれず、テクニカルミスを連続し、流れを渡してしまう。後半、山下詩のミドルシュートで先制。しかし前半からの流れを変えられず、連続でミスをしてしまう。韓国のオフェンスもミスを繰り返す場面があり、ここで差を詰めたかったが、野路のサイド、小松のカットインが散発的に決まるにとどまった。GK下地の奮闘もあって、韓国の得点を今大会最少に抑えることに成功したが、テクニカルミスが多く、集中力を欠いたオフェンスが課題となった。

[得点] 大城4，野路3，山下詩・山下裕・石立2，小松・荒木・細木・佐師1

◆決勝ラウンド：Ⅱ－Hグループ（8月10日（水））

○日　本　24（11-10, 13-9）19　ウクライナ
（1勝4敗）　　　　　　　　（5敗）

思い切りのよいジャンプシュートを石立，山下詩が決め、２－０とリードする。引き気味の６－０ディフェンスからクロスアタックを狙う日本をウクライナは攻め倦む。ウクライナは速攻への意識を強く持ち、連続で仕掛けるが、ＧＫ下地が３連続でセーブする活躍。中盤テクニカルミスから１度リードされるが、小松の強い仕掛けから大城・山下詩のジャンプシュートが連続で決まり、一進一退の展開になる。

後半、吉田の速攻などで４連続得点して突き放しペースを掴んだ日本は、大城の多彩な攻撃と荒木の速攻など、取られたら取り返す落ち着いた会心の試合運びで勝利した。攻守にわたって終始強気の姿勢が決勝ラウンド初勝利の勝因で、チーム全員で９位―10位決定戦の切符を手にした。

[得点] 大城11，山下詩6，荒木2，吉田・山下裕・石立・横嶋・佐師1

役員・選手団名簿

団長	市原則之	（財）日本ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ協会
副団長	蒲生晴明	（財）日本ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ協会
ヘッドコーチ	東江正作	（財）日本ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ協会
コーチ	吉兼敦生	（財）日本ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ協会
コーチ	北野香代	（財）日本ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ協会
ドクター	天門永春	三浦市民病院
トレーナー	松田亮子	日体大健康管理ｾﾝﾀｰ

	氏　名	所属先	出身校
GK	久染亜衣	大阪教育大	香川中央高
	下地ゆいの	筑波大	那覇西高
	南　裕子	武庫川女子大	洛北高
CP	細木久未	オムロン	夙川学院高
	佐師千可	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	宮崎学園高
	野路里子	北国銀行	福井商業高
	吉田　薫	武庫川女子大	夙川学院高
	横嶋かおる	北国銀行	高岡向陵高
	由田千草	茨城大	小松市立高
	山下詩穂	筑波大	小松市立高
	内平亜希	北国銀行	小松市立高
	小松史果	筑波大	熊本国府高
	荒木佳子	武庫川女子大	暁高
	石立真悠子	筑波大	小松市立高
	山下裕美子	東海大	桜花学園高
	大城夕貴	大阪教育大	浦添高

最終順位

- 優　勝：ロシア
- 準優勝：ノルウェー
- 3　位：韓国
- 4　位：ハンガリー
- 5　位：デンマーク
- 6　位：ｾﾙﾋﾞｱ・ﾓﾝﾃﾈｸﾞﾛ
- 7　位：クロアチア
- 8　位：ポーランド
- 9　位：ブラジル
- **10　位：日本**
- 11　位：スペイン
- 12　位：ウクライナ
- 13　位：中国
- 14　位：リトアニア
- 15　位：アンゴラ
- 16　位：チェコ
- 17　位：フランス
- 18　位：スウェーデン
- 19　位：チュニジア
- 20　位：アルゼンチン

◆9―10位決定戦（8月13日（土））

●日　本　24（12-13, 12-17）30　ブラジル
（Ⅱ－H；5位）　　　　　　（Ⅰ－H：5位）

序盤、点の取り合いの互角の闘いになり、９分に５－４。ブラジルは高い身体能力で日本のオフェンスのドリブルを巧みにカットし、攻撃の芽を摘む。日本ディフェンスも５－１でトップの横嶋が攻撃を分断し、ミスを誘う。25分過ぎまで山下詩のジャンプシュート、野路のサイドシュートなどで一進一退の展開となる。残り４分で１点リード、相手のバックプレーヤーが２分間退場となり突き放すチャンスと思われたが、逆に２点奪われ、12－13で前半終了。後半立ち上がり、テクニカルミスが出るが、GK下地の好セーブで相手にペースを渡さない。中盤盛り返し、残り８分まで吉田のポストシュート、細木の7mスロー、大城のジャンプシュートなどで互角の展開。ここから再びミスが出て一気に突き放される。再三のチャンスをシュートミスで潰したのが響き、最後の試合を勝利で飾れなかった。

[得点] 山下詩6，大城4，細木・野路3，吉田・石立・荒木2，小松・横嶋1

～君たちなくして日本の将来はない～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

最近、小学生、中学生たちのハンドボールに触れる機会が多い。しかもローカルで接することが増えたから、こちらとしてはうれしくなる。日本協会の事業計画の中でも小・中学生の普及、活性化は重点項目のひとつに掲げられている。そうした意味からもこうした現象は喜ばしいことである。

日本リーグ開催地では機会あるごとに教室や講習会が開かれている。9月下旬、男子・湧永製薬の地元で行われたリーグで、ホームチームだけでなく、アウェーのトヨタ車体の選手も賛同、合同の講習会を行ったが、この企画がまた素晴らしかった。

リーグ開催に合わせて中四国地域の男女各4チームが参加した小学生大会が開かれた。リーグを観戦したあとの講習会。約120人の小学生や、前座試合をした中学生が参加したが“未来の日本代表”のヒトミは、どれも輝いていた。イキイキした動きでパスをし、シュートを放つ姿は、躍動感にあふれていた。日本のトップアスリートと接したことは、最高の喜びであり、励みにもなったはずだ。

トヨタ車体の酒巻総監督は「試合後で選手は疲れていただろうが、指名するのでなく、ベテラン野村や代表メンバー香川らが率先してやってくれたのがうれしかった。今後も機会があればどんどん協力したい」と話し、選手の前向きな姿勢を感謝していた。

日本が今後、世界の舞台に活躍するにはトップ強化だけでなく、キッズからの普及、底辺拡大が絶対に欠かせない。さらに競技人口の広がりはサポーターの人口拡大にも当然ながら貢献する。試合会場が多くのファンで埋まれば、選手たちの闘争心もまた一段と上がってくることは間違いない。選手、ファンが一体となった「戦闘モード」となれば、これまたレベルアップにつながるのは明らかである。

来年春には初の中学生選手権が予定されている。「中学生日本一」を目指して緊迫した戦いが期待されるが、記念すべき初代王者はどこがつかむのか。参加を予定している彼らは今、頂点への夢を描いて練習に明け暮れているはずである。

明るい将来は、小学生、中学生の君たちが握っている。君たちのプレーが世界へ繋がっていると言っても過言ではない。各カテゴリーが足並みをそろえてアクションプランを描けば、必ず近い将来、日本ハンドボールが大きくはばたくだろうと信じて疑わない。

高松宮記念杯第 46 回全日本実業団選手権

男子：新監督を迎えて大同特殊鋼が復活V
女子：女王広島メイプルレッズ5年連続7回目のV

新シーズンに向けた高松宮記念杯第４６回全日本実業団選手権が７月 27 日～30 日、富山市総合体育館を会場に開催された。男子は優勝大同特殊鋼、準優勝大崎電気、３位湧永製薬、女子は優勝広島メイプルレッズ、準優勝オムロン、３位ソニーセミコンダクタ九州と全て日本リーグ勢が順当に勝ち上がった。本号では男女優勝チームの監督、選手のコメントを掲載致します。大会結果につきましてはスコアールーム③（P. 26）を参照下さい。

男子優勝チーム：大同特殊鋼

新人、ベテランの全員で勝ち取った勝利

監督　姜 在源（カンジェウォン）

大同特殊鋼の監督へ就任し最初の大会ということもあり、優勝できたことは非常にうれしく思っております。５月より来日し７月末の実業団大会まで約３ヶ月。この短期間でチームを仕上げるためとても苦労しました。

皆さんもご存知のとおり、大同特殊鋼は他の従業員と同じ仕事をした後トレーニングを行うため、練習時間や運動量が限られてきます。その与えられた短い時間に効率的・効果的にトレーニングすることは容易ではありません。選手全員よく集中して頑張ってくれたと思っております。

実業団選手権大会の決勝戦ではポイントゲッターにマンツーマンＤＦを引く戦術を取りましたが、勝因はそれだけではないと感じています。コートに立つ全員が勝利を信じ最後まで戦い抜いた事が一番大きかったと思います。また、得点も一点に集中することなく全員がバランスよく取れたこと、新人の武田・渡久川も初大会ながら良い結果を残してくれました。

これからが本当の勝負だと感じています。長期のリーグ戦、国体、総合等、勝ち続けるために、課題は山積みです。一つ一つクリアーし最強のチーム、世界に通用するチームを目指し前進していきたいと思います。

最後に大同フェニックスを応援してくれる皆様方に、感動を与えられるよう頑張ります。

優勝、次のタイトルへの第一歩

キャプテン　松林克明

昨年創部 40 周年という記念の年にタイトルを一つも取ることができず非常に悔しい思いをしました。

気持ち新たに迎えた 05 年度は、監督に姜在源氏を迎え主将も私に変わり、まさにフェニックスにとって背水の陣でスタートを切った年となりました。

そんな折、今年度初のタイトル、全日本実業団選手権を優勝で終えることができたのは非常に嬉しかったですし、厳しい練習の成果が出せた結果だと思います。これも監督から選手全員が一つになり勝ち得たものだと思います。そんな練習を頑張り抜いたチームメイトにはありがとう！という気持ちで一杯です。しかし、課題や反省が大きく残った大会でもありましたし、残りのタイトル奪取の為にもこれからのトレーニングで解決していきたいと思います。

また、今回の優勝にあたり会社関係者や応援団の方々、また昨年度の国体より最高の応援を展開し続けてもらっているサポーターの皆さんには多大のご支援、ご声援を頂き本当にありがとうございました。

女子優勝チーム：広島メイプルレッズ

勝利、練習が活きた大会

監督　林　五卿（イムオキョン）

今シーズン最初のゲームなので優勝、という良いスタートをきりたい気持ちが強くありました。５月、６月はシーズンを通してケガ人を出さない為に、ウェイトトレーニングを中心として行い、７月の一ケ月間は実業団大会に向けて、コンビの練習を行なってきました。

実業団大会は連戦の為、体力トレーニングを兼ねた練習も十分行なってきました。その練習の結果、大会を通じてけが人もなく、ベストコンディションで試合に臨む事ができました。

決勝戦はオムロンとの対戦で、様々な作戦を用いて試合に臨み、オムロン・ホン選手を守る為に河本選手を起用する作戦を試みました。そのパターンが良く機能し、相手のリズムを崩すことに成功しました。DF・OF ともに、分析の結果が功を奏し終始、私たちのリズムでゲームを進められた事が勝因だと思います。練習で繰り返し行なってきた事が実戦で 90％以上活かされました。クラブチームという厳しい状況で、結果を残してくれた選手達に感謝の気持ちでいっぱいです。

今大会で日頃の練習の大切さ・けが人を出さないことの大切さを再認識させて頂き、とても有意義な６日間でした。

大会中、ベストコンディションでゲームに臨めたのも、役員の方々・応援して下さった方々のおかげと存じ、厚く御礼を申し上げるとともに、これからも何卒宜しくお願い致します。

優勝の一因は怪我をしない身体作り

キャプテン　青戸あかね

高松宮記念杯第 46 回全日本実業団ハンドボール選手権大会では「優勝」という結果を残せ、大変うれしく思います。

今回は全体的に怪我人が多い大会でしたが広島メイプルレッズでは怪我人が出ず、無事に大会を終えることができました。このことは勝因の一つであったと思います。そして、怪我をしにくい身体をつくることの大切さを実感する大会となりました。

富山で開催されたこともあり、浅井、石山、大前の三選手を中心に広島メイプルレッズに多大なる声援を送って下さいました皆様に感謝致します。また、大会を運営して下さいました役員の皆様には、良い環境での会場作りをしていただき、ありがとうございました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

これからも初心を忘れずに、一つ一つの大会に臨んでいきます。

特別寄稿　第1回アジアユース選手権大会

第1回男子ユースアジア選手権を戦って

U－19ヘッドコーチ
玉村　健次（JOCハンドボール専任コーチ）

6月26日～7月2日までバンコク（タイ）にて開催された第1回男子ユースアジア選手権（兼ユース世界選手権アジア予選）にU－19チームが参加、約20年遠ざかっている若い世代での世界選手権に出場する為アジアの強豪国に戦いを挑んだ。大会は、A・Bの2グループに分かれそれぞれリーグ戦を行い、上位2チームが準決勝（Aグループ1位×Bグループ2位）を戦うシステムであったが直前になりAグループの北朝鮮が棄権した為にマカオが変わって入り、リーグ戦を行った。結果は3位で世界大会への出場権は逃したものの、次代への期待のもてる収穫の多い大会であった。

ディフェンス面ではインドでのJrアジア選手権の反省及び課題を修正し、真中に大型選手を揃え、2枚目のDFが積極的にアタックし、中に抜かせ高い所からシュートを打たせGKと連携して守る6－0ディフェンスを基本にチーム戦術を図った。

オフェンス面では、OFF THE BALLの動きを多く取り入れ、バックプレーヤーがポジション移動を繰り返しながら緩急を織り交ぜたシステムを導入し強化を図った。又、速攻においては、選手交代の問題もあり、2パターンを導入し、選手には状況に応じて選択することを要求した。

また、フィジカル面強化のために強化合宿において尾中トレーナーがバルクアップ型トレーニングのインフォメーションを実施し、約4ケ月間を費やして体力トレーニングの重要性を促し実践した。

強化期間が少ない為、チーム目標に対しての選手個人の考えや意見などを聞き入れチーム作りを図った。また、西山医科学委員及び有田ドクターの協力があり、栄養指導、水分指導、メディカルチェックを実践してもらうことで選手の意識は高まった。

選手は学生であり、学業との兼ね合いで強化合宿のスケジュール調整が難しい中、大会までに毎月1回の強化合宿を実施。心配されていた選手に大きな怪我もなく、良いコンディションで大会に臨むことができた。

試合に出場し、見つかった課題とこれからの展望

男子U－19チームキャプテン
染谷　雄輝（日本体育大学1回生）

第1回ユースアジア選手権に参加し、アジアの同年代の選手達と世界選手権の代表の座を懸けて試合をする事が出来、これからの自分のハンドボール生活にとてもプラスになりました。男子のジュニア世代は、約20年も世界大会から遠ざかっており、自分達の代で世界大会に出場し、強い日本を復活させる事をチームの目標として玉村監督・滝川コーチのもと3月の強化合宿を皮切りに強化に励みました。

私は、昨年のインドでのジュニアアジア選手権に高校生として参加し、アジアの選手達とプレーした経験を活かし、このチームのキャプテンを任されました。

大会に参加し、対戦してみて、選手達の体格とプレーの力強さを感じ、特に体格ではイラン・バーレーンなどの中東勢の選手達は、我々よりひと回り大きく感じられました。また、点を取る事、ボールに対する執着心、身体を張ってゴールに向い、点を取りにいく姿勢は自分もチームも見習わなければいけないと思いました。

結果として準決勝で“宿敵・韓国”に破れ、世界大会の切符を掴むことが出来ず悔しい思いをしましたが審判の微妙な判定で試合が変わったりして、今も決して負ける相手ではないと思っています。しかし、大事な場面でのシュートミス・イージーミスなどがあり、チームとしては「1本の大切さ」を痛感ました。「ここ1本」という場面であせることなく練習してきた事を出すことが出来なかった事は、今の自分達の実力だと思うのでトレーニングの時から厳しい状況を想定してプレーしなければ試合には勝てません。

これからの自分に対する課題は、1試合をフルに走れるスタミナをつけ、大きい選手達に当たり負けしない為の身体つくり、またサイドシュートの確率をあげる為のバリエーションを増やす意味でも色々なシュートを打ち分けれるようにすることです。今回キャプテンを務め出来なかった事をしっかり反省し、コートの中でも外でもリーダーシップがとれるように努力したいと思います。

試合の結果、世界選手権には出場する事は出来きませんでしたが3位に入り、次に繋がる戦いが出来たと思います。また、国際試合を経験し、日本のアジアでの位置も解り、これからのチームに対する課題、自分に対する課題も見つかったので大学に帰りトレーニングに励みたい。また、プレーだけではなくU-19日本代表としてふさわしい行動をとり皆の手本となるような選手でなくてはいけないと感じました。

来年は、日本でジュニアアジア選手権があると聞いています。地元での大会に今回経験した事を活かし、今回のチームよりもより一層成長したチームになるよう常に対外国を意識してトレーニングに励んで行きたいと思います。

最後に、このような貴重な経験をさせて頂いた大学関係者・日本協会に感謝するとともに更なる努力を重ね、上を目指し、次回の大会では優勝を掴み取りたいと思います。

asics

俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

ゲルブレイブ
GELBRAVE WIDE

THH513 ¥12,600(本体¥12,000)

カラー：0490 イエロー×ブラック
5001 ネイビー×ホワイト

サイズ：23.0～29.0･30.0cm

0490

5001

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。

http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

外傷・傷害予防を目的としたトレーナー・ステーションの設置
―中四国学生ハンドボール連盟の取り組み―

越智英輔[1)]・三浦孝仁[2)]・織田靖史[3)]・山下悠子[2)]・高野　修[4)]・堺　賢治[4)]・森田俊介[4)]（写真）
1）東京大学大学院総合文化研究科　2）岡山大学教育開発センター　3）玉野総合医療専門学校
4）中四国学生ハンドボール連盟　高野 修（広島経済大）・堺 賢治（愛媛大）・森田俊介（山口大）

はじめに

近年、スポーツ選手の外傷・傷害予防に関してトレーナーの存在が大きく注目されている。トレーナーは、競技中の外傷の応急処置だけでなく、テーピング、ストレッチ、マッサージ、筋力トレーニングの指導などのコンディショニングも行ない、選手が試合で最高のパフォーマンスを発揮するために欠かせない存在となっている。

本連盟の春・秋リーグ戦は、地域性を考慮してそれぞれ5日間の集中方式で開催されている。このような方式では、試合中の傷害はチームの戦力に直接影響するため、少人数チームであれば棄権を余儀なくされる場合も生じる。そこで、選手の傷害を予防し大会運営を円滑に行うため、平成11年度から本連盟では、会場全体が見渡せるフロアーの一角にトレーナー・ステーションを設置し、大会期間中に発生する外傷の応急処置と予防に努めている。トレーナー・ステーションの構成員は、大会専属トレーナー1名（有資格者）とアシスタントトレーナー1名であり、トレーナー雇用およびテーピングテープの費用は、大会参加費より捻出している。

本報告は、今後のトレーナー・ステーションのあり方について検討するために、設置初年のアンケート調査をまとめたものである。

研究方法

平成13年度春季・秋季リーグ戦に参加した選手（春季：339名、秋季：307名）、チーム代表者および大会期間中の受傷者（トレーナー又は医師により処置を受けた者）を対象に、個別面接またはアンケート調査を行なった。

結果と考察

①トレーナー・ステーションの利用延べ人数は、春季大会が173人、秋季大会が142人であり、それぞれ全参加者の2割程度であった。
②利用頻度は両大会とも、第3日目が最も高かった。
③外傷・傷害の種類は両大会とも、捻挫が最も多く、次いで打撲、突き指、腰痛症の順であった（下図）。部位別では足関節が最も多く発生し、体幹部、膝関節、手指でも比較的多くみられた。

④練習後にストレッチを行うチームは9割、アイシングは4割程度であった。
⑤練習に筋力トレーニングを実施しているチームは、3割であった。
⑥足関節にテーピング処置ができる人がいるチームは、6割であった。
⑦足関節捻挫の冷却方法は、9割のチームがコールドスプレーを使っているのに対し、氷による冷却は6割であった。
⑧足関節捻挫後、人数不足などの理由からやむを得ず練習や試合に復帰する場合や、回復状態をみながら復帰する場合には、9割以上のチームがサポーターを使用し、テーピングを使用するのは6割程度であった。
⑨両大会でトレーナーに処置を受けた学生のうち、RICE処置を知っている人の割合は3割であった。

考察

中四国学生ハンドボールリーグ戦におけるトレーナー・ステーションの利用頻度から、トレーナーの重要性を確認することができた。しかし、トレーナー1人が一度に対応できる人数には限度があり、処置を求める選手数に見合ったトレーナー数に関しては今後の課題として残った。また、外傷予防・処置に関するアンケート結果からは、各チームの外傷予防の対策は十分とはいえず、応急処置の知識をもつ学生の割合も低い傾向にあることが明らかとなった。

以上の結果から、中四国リーグにおいては大会期間中のトレーナー・ステーションの設置は今後も継続していくことが必要であると考えられる。また同時に、各チーム・個人で可能な限り外傷・障害予防対策を行なうことで、外傷の未然予防・再発予防を行うこと、また外傷が起きた場合に、早期スポーツ復帰ができるように応急処置やその後の対応などの教育も重要である事が示唆された。さらに各チームにおいては、常に選手のコンディショニングに努め、試合で最高のパフォーマンスが発揮できるチーム体制を整えていくことが望まれる。

参考文献

1）阿部徳之助ら：ハンドボール選手の外傷・障害について．日本体育協会スポーツ科学研究報告集　Vol. 1：26－33，1988.
2）Firer P.：Effectiveness of taping for the prevention of ankle ligament sprains．Br. J. Sports Med. Vol. 24, No.1：47-50，1990.
3）井浦吉彦　北川延尚：傷害予防としてのテーピングの普及に関する研究．金沢大学教育学部紀要（教育科学編）第46号：37－48，1997.
4）河野卓也：ハンドボール．臨床スポーツ医学　Vol. 12 臨時増刊号：368－372，1995.
5）山本利春・吉永孝徳：スポーツアイシング．大修館書店：2001.

山田永子のノルウェー研修日記④

全日本女子デンマーク合宿に参加して

合宿での山田さん

はじめに

8月5日～17日にデンマークで全日本女子の合宿が行なわれました。私はバウワー監督に昨年の冬、一度お会いしたことがありましたが、その時のバウワー監督の印象は「頭の冴えている人」、「プロフェッショナル」、「懐の広い人」この3つでした。今回の合宿ではコーチとしてチームに帯同したことで彼と話す機会が多く、彼の指導力の奥深さ、ハンドボールをこよなく愛するハートを知りました。

全日本合宿に参加

私はノルウェーでの研修が2年目に入り色々と慣れたものの、日本とノルウェーのハンドボールを取り巻く環境には大きな差があります。選手とコーチの関係一つをとってみても、ここではコーチをする側が「今日は来てくれてありがとう」と言います。もちろん個人差、チーム差はありますが、ヨーロッパ全体がそういう雰囲気だと思います。私がノルウェーに来て感じたカルチャーショックの逆のバージョンを経験しているバウワー監督ですが、ヨーロッパとは違う慣れない雰囲気に戸惑いながらも、日本の文化について書かれた本を読んだり、緊張気味の選手ともジェスチャーで楽しくコミュニケーションを図ったり、自分の習慣を押し付けるのではなく、日本の文化を理解し、良さを活かす方法を考えているように感じました。また、今回の合宿は、実業団大会直後に国内合宿が始まり、そのままデンマークへ移動しています。日本の選手が精神的にも肉体的にも疲れているはずなのに、誰も練習を休まないどころか、手を抜かずに一生懸命練習する姿勢に驚き、「練習に対する姿勢はとても素晴らしいし、日本チームの礼儀正しさ、人に対する尊敬の念も好きだ。また、日本のチームは規律がしっかりしている。そしてスピードがある。それはヨーロッパの選手には絶対真似ができない日本の長所である。」と言っていました。

バウワー監督は、全体的なことから個人的なこと、ボディランゲージに至るまで教えたいことが山ほどあるけれども、言葉の問題や限られた短い時間でロシア（世界選手権）に向けた準備をしなければならないため少しもどかしい、しかし焦らず確実にステップバイステップしていこうと話しています。また選手はバウワー監督からいろんな事を吸収したいと非常によい雰囲気です。

シンプルな指導

バウワー監督の指導がシンプルであるのはすでに知られているところですが、シンプルで分かりやすいのには理由があります。解決したい課題を棚のようなものに整理し順番を整え、選手には意識するキーワードを1つまたは2つだけ提示します。その一つ一つのキーワードは特別なものではありません。「会話」や「常にゴールを狙う」といった普段私たちが言っていることと同じです。そして常にゲームのための練習をするために集中力を高く持つよう注意します。課題を整理し、それを順番立てして、常に質の高い練習をすることが彼の指導の深みだと感じています。その場その場で気づいた課題、情報を伝えてしまうとあっという間に選手はパニックを起こします。加えて、球技の面白さであるタイミングや駆け引きのようなものを練習の課題に加えて行ったら焦点が絞りづらくなります。それはレベルが高い低いではなく、誰しもが一度に多くのことを意識しながらプレーすることができないからです。

確実に力をつけている全日本

デンマークリーグのホーセンスとの対戦前の練習で、デンマークのチームが得意とするポストプレーを守るための練習をしました。オフェンスはワンパターンの動きから決まった場所でポストへアシストし、ディフェンスはそれを守ります。ディフェンスは分かっていても守れない経験を経て、タイミングをつかんでいきました。その後、オフェンスに徐々に選択肢を与えていきました。その日ゲームでは事前に練習したディフェンスが功を奏し、相手の得意なポストプレーを抑えました。ポストプレイを止められ続けたホーセンスは、バックプレイヤーがロングシュートを打ち出し加点されはしましたが、デンマークの得意とするプレーに対して守るコツを掴み非常に収穫がありました。選手達がデンマークでの1戦1戦で確実に自信をつけていると感じます。

闘う集団になるために

最終日にニールセン朋子さんが取材にいらっしゃったのですが、「選手が活き活きしていて、とってもいい雰囲気ですね。」と言われました。私たちが充実していると感じるだけでなく外から見ていても良い雰囲気が伝わるのはとても嬉しいことです。

今回の合宿ではロシアの世界選手権に向けて『frame of our game』を作りました。「日本選手にはスピードがある。60分間そのスピードを可能にするたくましさと規律が日本の選手にはある。あとは形態的に大きな選手と対戦する感覚を実践で養うこと、ヨーロッパチームの得意とするプレーを実践で克服する経験を積むためにヨーロッパチームとの試合経験が必要だ。」とバウワー監督は言います。

最後になりましたが、この合宿では貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。微力ながら引き続きベストを尽くして行きたいと思います。

ミーティング風景

サッカーの審判組織と実際の審判で心掛けていること

サッカー国際審判員　山西 博文（(株) サンフレチェ広島）

本年7月22日～24日まで開催された第10回ヒロシマ国際ハンドボール大会に合わせて平成17年度コーチ・レフェリーシンポジウム（7月23・24日）が開催されました。シンポジウムの初日、異種競技の審判員の話しとしてサッカー国際審判員の山西博文氏の講演を頂きました。今号ではその講演要旨を掲載いたします。山西氏は国際審判員（国際主審）として活躍される一方、国内ではＪリーグの審判をされ、所属の（株）サンフレチェ広島では主任として営業の第一線で活躍されています。
（文責は機関誌編集委員会）

はじめに

ハンドボールで広島と言えばメイプルレッズで、男子は湧永製薬もありハンドボールの盛んな土地です。私はサンフレチェ広島に所属しクラブの営業活動をしながら審判もしています。ハンドボール関係者の皆様の前でお話しさせていただけることを光栄に思います。

サッカーとハンドボールの違い

昨日ハンドボールの試合を見せていただきました。共通点はネットがないこと、判定が微妙であること、角度によっては見えない部分が生じることです。大きな違いは、サッカーが一人で判定を行うのに対して、ハンドボールは２人の審判員が同等の権限で、同じ基準を持って判定に当たっていることだと思います。その様な異種競技であるサッカーの審判の話が参考になるか分かりませんが、少しでもお役に立てば思います。

サッカーの審判組織について

現在、日本には国際審判員が20名、全国大会を担当できる１級審判員が140人います。よい選手は良い指導者が育てるのと同様に、審判も育てなければ成りません。サッカー協会には審判育成のための組織があります。

そのチーフは高田静夫氏（ＪＦＡ審判委員長、ＪＦＡ理事）であり、その下に審判部があります。サッカーの審判の中にはプロ契約したスペシャルレフェリーが５名います。彼らを含む審判部の主要業務は①審判委員会の運営補佐、②審判員／審判指導者の派遣、③審判員／審判指導者の登録、④競技規則の普及及び指導に関わる物品の作成と販売管理、⑤21世紀のレフェリー改革アクションプランの推進です。

審判委員会の任務は①国際審判員及び１級審判員の強化、②２級以下の審判員の育成と発掘、③余女性審判員の強化と発掘、④審判指導者の資質向上、⑤フットサル審判員の育成と普及、⑥地域及び都道府県審判委員会の把握・指導、⑦Ｊリーグ審判員対応などがあります。

トップレフェリー育成プロジェクト

サッカーの審判登録数は2003年で、１級146名、２級2,706名、３級24,093名、４級121,158名、計148,103名です。そのうち17,567名は高校生です。そしてその中から世界に通用する審判を養成するトップレフェリー育成プロジェクトが2003年９月に設置されました。残念ながらワールドカップに選ばれた日本人審判は未だ決勝トーナメントを任されたことがないのです。

プロジェクトの任務の一つに審判指導者の育成があります。先にも述べましたが良い審判を育てるためには良い指導者が必要なのです。現在インストラクター、インスペクター併せて56名が登録されています。

審判の資質と活動

審判員の資質には５つあると思います。それらは①スピード・スタミナ、②判定力、③勇気・決断力、④経験、⑤人間性です。これらのどれ一つ欠けてもならないと考えます。

審判員の活動には、審判割り当て→トレーニング→移動（前泊、後泊）→試合当日(反省会)→評価(インストラクター)→Ｊリーグ研修会（１回／２ヶ月）→１級研修会（２回／年）があります。

審判員の活動は「ルールは選手を守るためにある」という立場に立たなければならないと思います。そうすることで「選手がどれだけ良いプレーができるか」が決まってきます。審判人の活動とはプレーを規制することではなく、「プレーさせる」ことであるのです。だからこそ審判員には勇気と決断が要求されるのだと思います。

そのために心掛けているものが３Ｃです。３ＣとはConcentreation（集中力）、Courage（勇気）、Communikcation（コミュニケーション）です。

もちろん審判を続けるためには環境も大切です。環境とは家族であり、会社であり、地域です。１試合を担当するには最低４日間が必要です。会社の理解と協力、家族の支えがなければ決してできないのです。

審判を通じて

私はサッカーの審判を通して人生の一つの夢を持つことができたと思っています。選手を引退した後でも、現場で選手とふれあうことができることも大きいと思います。日本の最高峰のＪリーグのピッチ上で選手と一緒に緊張感を味わうことができるのは最大の喜びです。また、「１級審判員」→「国際審判員」→「ワールドカップ」と常に上を目指すことに張り合いを感じます。そして何より全国、あるいは外国に友人ができました。職場の仕事に幅ができますし、営業先での自己アピールは営業活動にも生かすことができるのです。

終わりに

短い時間で、どれだけお役に立てたか分かりません。サッカーをテレビで、時には会場に足を運んで実際のゲームを楽しんで下さい。ご静聴有難うございました。

北村善夫氏がフォト・オブ・ザ・イヤーに入賞！！

ＩＨＦよりグッドニュース

7月20日号のＩＨＦニュースで、すばらしいニュースが飛び込みました。それは2004年のフォト・オブ・ザ・イヤーに日本の北村氏の作品が入賞作となったことが伝えられたことです。北村氏は機関誌編集委員長（協会参事・茨城県立水戸桜ノ牧高等学校）を勤められており、毎号欠かさず定期的な発行のため時間を割いて努力をしていただいています。その傍ら、機関誌の写真を撮り続け、機関誌のグレードアップのために自らの作品を提供していただいています。その写真は多くの皆様も紙面で目にしておられると思います。

今回のこのような快挙に対し、心からお祝いを申し上げ、今後益々のすばらしい作品を撮っていただくよう期待するしだいです。

ＩＨＦフォト・オブ・ザ・イヤーは今年で９回目

ＩＨＦのフォトコンテストは、1992年から始められ、今回で9回目になります。過去の受賞者を見てみると、ドイツ、オーストリア、ハンガリー、ノルウェー、スウェーデンと、やはりハンドボールがメジャーな国々の人たちが受賞しています。この中でもドイツ、ノルウェー、スウェーデンからは過去２人ずつの受賞者を出しています。

アマチュアカメラマンとしての快挙

今回で９人のフォト・オブ・ザ・イヤーが表彰されましたが、この方々はすべてプロのカメラマンとして生活をしている人たちです。実は1999年の大賞に選出されているのは日本人の佐々木直人さんと言う方で、秋田魁新聞のカメラマンです。これは秋田のワールドゲームでのビーチハンドボールを題材としたものでした。ヨーロッパではハンドボールのメジャー度は高いことで知られますが、ドイツでは人口100人当たり1.7人の登録人口、デンマークでは100人当たり２人のハンドボール登録人口を持っています。ハンドボールに対する人々の関心は高く、ハンドボールの専門誌やメディアでの扱いは高いことが知られています。このことから、ハンドボール専門のカメラマンとして生計を立てるプロのカメラマンも多数存在しています。熊本の世界選手権や、ヨーロッパからのチームが来日したときカメラマンが同行していることからも伺えるでしょう。

そのような中で、アマチュアカメラマンの北村氏の作品が認められたことは、大きな意義を持っていると言えるでしょう。

ハンドボール周辺文化の成熟を

ハンドボール競技は、そのゲームを持ってだけで、その文化度を上げていくものではありません。ハンドボールを取り巻く環境は多岐にわたっています。その、それぞれがハンドボール

と関わってその成果を挙げていくことが、ハンドボールの文化度も上げて行くものと思います。ヨーロッパのハンドボールを見れば、その周辺にある文化もそれぞれ多様に発展しています。テレビ放映、各種グッズなど日本で知られているだけでも、日本にあるものとは大差があるように思います。その中のひとつが今回のフォト・オブ・ザ・イヤーの入賞であります。日本でも、まだまだ多くの人たちがハンドボールの写真を撮っています。北村氏に限らず、その方々が世界に多く認められるような盛り上がりがほしいと思っています。

入賞作は人が焦点

過去の入賞作品を見てみると、初期にはハンドボールのプレーが主体であったと思います。しかし、今回のＩＨＦの評価では「人が焦点となっていた」という評価があります。すでにプレーヤーのパフォーマンスを写真で表現するのはごく普通になっており、ハンドボールのゲームの中で現れる、喜怒哀楽などハンドボールに関わる人を表現することが主流となっているようです。これはすなわちハンドボールの文化度が高くなっていると考えられるところです。

少し前の作品を見れば、これがハンドボールなのかと思えるような（日本でのハンドボール関係者として）作品もありましたが、ヨーロッパの人から見ればハンドボールそのものなのでしょう。

ヨーロッパのゲームを見れば、そこが劇場と化していることがわかります。スポットライト、会場の暗転などまるでどこかの劇場に入り込み一大エンターテイメントを見ているような雰囲気さえあります。

このようなハンドボールの盛り上がりの一歩として、今回の北村氏の快挙を捕らえ、今後ますます北村氏に続き、ハンドボールを盛り上げるためいろいろな方々が、いろんな周辺文化を発展させていくことを期待して、お祝いとします。

［文責：（財）日本ハンドボール協会常務理事・村松　誠（機関誌編集委員）］

スコアールーム ①

平成17年度全国中学校体育大会 第34回全国中学校ハンドボール大会

開催期日：平成17年8月21日(日)～24日(水)
会　　場：豊橋市総合体育館

【男子】

優　勝　守谷市立けやき台中学校(茨城県)：初優勝
準優勝　大分市立稙田西中学校（大分県）
第３位　名古屋市立平針中学校（愛知県）
　　　　名古屋市立汐路中学校（愛知県）

1回戦
浦　西（沖縄県）　21（11－９、10－６）15　岐　陽（山口県）
前　芝（開催地）　24（11－12、13－11）23　豊中第二（大阪府）
大　瀬（奈良県）　28（17－13、11－11）24　西中原（神奈川県）
東　山（岐阜県）　26（12－８、14－８）16　月　寒（北海道）

2回戦
平　針（愛知県）　28（12－８、16－９）17　大体大附属（大阪府）
けやき台（茨城県）29（11－10、18－10）20　日　吉（長崎県）
氷見北部（富山県）22（10－10、12－７）17　石　川（福島県）
通　津（山口県）　30（13－10、17－13）23　西　柴（神奈川県）
西　條（富山県）　23（12－７、11－12）19　浦　西（沖縄県）
香川第一（香川県）27（15－４、12－15）19　前　芝（開催地）
汐　路（愛知県）　30（18－８、12－12）20　大　瀬（奈良県）
稙田西（大分県）　25（13－８、12－７）15　東　山（岐阜県）

3回戦
平　針（愛知県）　23（12－８、11－12）20　西　條（富山県）
けやき台（茨城県）28（14－12、14－９）21　香川第一（香川県）
汐　路（愛知県）　23（12－11、11－８）19　氷見北部（富山県）
稙田西（大分県）　30（10－14、14－10）27　通　津（山口県）
　　　　　　　　　（４－２延長２－１）

準決勝
けやき台(茨城県)　19（６－10、13－6）16　平　針（愛知県）
稙田西（大分県）　30（12－12、18－9）21　汐　路（愛知県）

決勝戦
けやき台（茨城県）27（15―12、12―12）24　稙田西（大分県）

【女子】

優　勝　東久留米市立西中学校(東京都)：初優勝
準優勝　生駒市立上中学校（奈良県）
第３位　本渡市立本渡中学校（熊本県）
　　　　高松市立香東中学校（香川県）

1回戦
岩　井（茨城県）　15（８－７、７－５）12　平　針（愛知県）
豊橋南部（開催地）20（11－６、９－５）11　羽　後（秋田県）
花　畑（福岡県）　19（７－５、12－11）16　東生野（大阪府）
神　森（沖縄県）　25（14－12、11－10）22　中　瀬（東京都）

2回戦
本　渡（熊本県）　17（12－８、５－７）15　岐　陽（山口県）
東久留米西(東京都)33（17－12、16－14）26　大　蔵（兵庫県）
西笹川（三重県）　25（10－６、15－12）18　御　幸（石川県）
　上（奈良県）　　28（16－３、12－４）７　東　山（岐阜県）
岩　井（茨城県）　25（12－６、13－13）19　明　倫（福井県）
豊橋南部（開催地）29（15－７、14－３）10　藤　野（北海道）
香　東（香川県）　23（11－８、12－１）９　花　畑（福岡県）
下津井（岡山県）　22（９－11、13－10）21　神　森（沖縄県）

3回戦
本　渡（熊本県）　25（11－10、14－13）23　岩　井（茨城県）
東久留米西(東京都)28（17－８、11－４）12　豊橋南部（開催地）
香　東（香川県）　21（11－６、10－９）15　西笹川（三重県）
　上（奈良県）　　21（11－10、10－９）19　下津井（岡山県）

準決勝
東久留米西(東京都)24（13－７、11－６）13　本　渡（熊本県）
　上（奈良県）　　21（10－５、11－10）15　香　東（香川県）

決勝戦
東久留米西(東京都)31（14―11、17―11）22　上（奈良県）

スコアールーム ②

第18回全国小学生ハンドボール大会

開催期日：平成17年7月29日(金)～7月31日(日)
会　　場：京田辺市田辺中央体育館、同志社大学京田辺キャンパス体育館、
**　　　　　京都府立田辺高等学校体育館**

【男子】

優　勝　中央小ハンドボール部（熊本県）
第２位　宮城小ハンドボールクラブ（沖縄県）
第３位　下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）
第４位　薪ハンドボールクラブ（京都府）

予選リーグまたは予選トーナメント結果

Aブロック
宮城小クラブ(沖縄県)　17（８－４、９－６）10　真弓クラブ(奈良県)
LITTLEGUTS(山口県)　20（11－６、９－10）16　真弓クラブ
宮城小クラブ　15（７－２、８－10）12　LITTLEGUTS

Bブロック
窪スポ少クラブ(富山県)　16（７－２、９－１）３　矢掛フレンズ(岡山県)
桃園小学校クラブ(京都府)　20（９－５、11－４）９　塩山スポ少(山梨県)
矢掛フレンズ　13（５－３、８－２）５　塩山スポ少
窪スポ少クラブ　15（５－５、10－７）12　桃園小学校チーム

Cブロック
岸和田フレンズ(大阪府)　15（９－３、６－２）５　愛媛ジュニアーズ(愛媛県)
下郡スポ少（大分県）22（11－７、11－５）12　岸和田フレンズ
下郡スポ少　24（15－４、９－７）11　愛媛ジュニアーズ

Dブロック
小島小クラブ(長崎県)　14（５－３、９－５）８　香川町スポ少オリーブくん(香川県)
和歌山ハンド教室(和歌山県)　16（６－７、10－５）12　香川町スポ少オリーブくん
小島小クラブ　17（８－６、９－７）13　和歌山ハンド教室

Eブロック
薪クラブ（京都府）　21（８－７、13－４）11　鈴鹿スクール(三重県)
薪クラブ　22（10－９、12－13）22　富岡イーグルス(群馬県)
富岡イーグルス　16（８－７、８－５）12　鈴鹿スクール

Fブロック

東海スクール（愛知県） 15（8－7、7－5）12 小金井レッドマシンガンズ（東京都）
三松小スポ少（宮崎県） 15（10－5、5－9）14 東海スクール
小金井レッドマシンガンズ 17（8－9、9－5）14 三松小スポ少

Gブロック

木田ブルーロケッツ（福井県） 16（8－1、8－5）6 かやげクラブ（北海道）
スポ少守谷クラブ（茨城県） 22（9－6、13－1）7 和田山（大蔵）クラブ（兵庫県）
かやげクラブ 17（10－2、7－5）7 和田山（大蔵）クラブ
木田ブルーロケッツ 13（5－5、8－7）12 スポ少守谷クラブ

Hブロック

三郷クラブ（埼玉県） 15（5－6、10－4）10 安芸高田クラブ（広島県）
中央小（熊本県） 18（13－5、5－2）7 三郷クラブ
中央小 19（13－1、6－2）3 安芸高田クラブ

決勝トーナメント

1回戦

宮城小クラブ 18（11－7、7－10）17 窪スポ少クラブ
下郡スポ少 19（9－9、10－9）18 小島小クラブ
薪クラブ 21（9－9、8－8）20 東海スクール
中央小 15（6－7、9－7）14 木田ブルーロケッツ

準決勝

宮城小クラブ 15（7－8、8－4）12 下郡スポ少
中央小 17（7－5、10－4）9 薪クラブ

3位決定戦

下郡スポ少 19（7－7、12－9）16 薪クラブ

決勝戦

中央小 14（9－2、5－9）11 宮城小クラブ

【女子】

優　勝　松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（京都府）
第2位　玉名町小学校（熊本県）
第3位　小金井スピードドルフィン（東京都）
第4位　宮城小ハンドボールクラブ（沖縄県）

予選リーグ結果

aブロック

湊チャフリーズスポ少（福井県） 14（7－4、7－5）9 HC名古屋スクール（愛知県）
宮城小クラブ（沖縄県） 20（6－3、14－9）12 HC名古屋スクール
宮城小クラブ 13（6－1、7－5）6 湊チャフリーズスポ少

bブロック

富岡ラビッツ（群馬県） 17（7－2、10－3）5 安芸高田クラブ（広島県）
富岡ラビッツ 13（8－5、5－1）6 兵庫ジュニア（兵庫県）
兵庫ジュニア 14（6－1、8－2）3 安芸高田クラブ

cブロック

延岡Jrクラブ（宮崎県） 13（7－2、6－6）8 三郷クラブ（埼玉県）
薪クラブ（京都府） 10（6－2、4－3）5 延岡Jrクラブ
薪クラブ 17（7－3、10－3）6 三郷クラブ

dブロック

玉名町小（熊本県） 8（5－3、3－3）6 岩国レインボー・キッズ（山口県）
玉名町小 24（15－2、9－5）7 塩江スポ少（香川県）
岩国レインボー・キッズ 22（12－4、10－3）7 塩江スポ少

eブロック

三佐クラブスポ少（大分県） 16（7－3、9－4）7 高山ミニハンド（岐阜県）
高山ミニハン 12（8－2、4－3）5 大浜キッズ（大阪府）
三佐クラブスポ少 24（14－3、10－3）6 大浜キッズ

fブロック

小金井スピードドルフィン（東京都） 25（10－1、15－1）2 かやげクラブ（北海道）
和歌山ハンド教室（和歌山県） 11（4－2、7－6）8 かやげクラブ
小金井スピードドルフィン 21（10－1、11－1）2 和歌山ハンド教室

gブロック

松井ヶ丘小クラブ（京都府） 12（5－2、7－3）5 小島小クラブ（長崎県）
笹川ハンド少（三重県） 20（9－3、11－6）9 小島小クラブ
松井ヶ丘小クラブ 22（14－2、8－5）7 笹川ハンド少

hブロック

上庄クラブ（富山県） 19（9－5、10－5）10 真弓クラブ（奈良県）
上庄クラブ 23（15－2、8－2）4 総社クラブジュニア（岡山県）
真弓クラブ 18（8－1、10－2）3 総社クラブジュニア

決勝トーナメント

1回戦

宮城小クラブ 14（6－8、8－5）13 富岡ラビッツ
玉名町小 6（6－2、0－2）4 薪クラブ
小金井スピードドルフィン 14（6－5、8－5）10 三佐クラブスポ少
松井ヶ丘小クラブ 20（5－6、9－8）15 上庄クラブ
（2－1延長4－0）

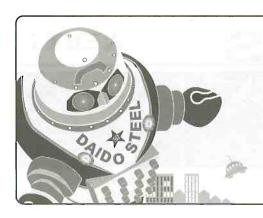
準決勝

玉名町小 16（9－6、7－4）10 宮城小クラブ
松井ヶ丘小クラブ 12（6－3、6－3）6 小金井スピードドルフィン

3位決定戦

小金井スピードドルフィン 20（8－8、12－4）12 宮城小クラブ

決勝戦

松井ヶ丘小クラブ 14（7－1、7－8）9 玉名町小

スコアールーム ③

高松宮記念杯第46回全日本実業団ハンドボール選手権大会

開催期日：平成17年7月27日（水）～31日（日）
会　　場：富山市総合体育館

【男子】

最終順位

優　勝　大同特殊鋼（２年ぶり13回目の優勝）
準優勝　大崎電気
３　位　湧永製薬
４　位　トヨタ紡織九州
５　位　ホンダ
６　位　トヨタ車体
７　位　ホンダ熊本
８　位　北陸電力
９　位　八光自動車
10　位　豊田合成

個人賞

ＭＶＰ	末松　　誠	（大同特殊鋼）
ベストセブン	白　　元喆	（大同特殊鋼）
	李　　才佑	（　〃　）
	高木　　尚	（　〃　）
	太田　芳文	（大崎電気）
	宮﨑　大輔	（　〃　）
	小藪　憲次	（湧永製薬）
	呉　　相民	（トヨタ紡織九州）
優秀監督賞	姜　　在源	（大同特殊鋼）
新人賞	中畠　嘉之	（トヨタ紡織九州）

・予選トーナメント・１回戦

大崎電気	50（23－３、27－４）7	豊田合成
湧永製薬	41（21－９、20－８）17	八光自動車
トヨタ車体	40（20－13、20－18）31	北陸電力
ホンダ	33（12－14、21－12）26	ホンダ熊本

・予選トーナメント・２回戦

トヨタ紡織九州	36（19－16、17－13）29	トヨタ車体
大同特殊鋼	41（22－21、19－12）33	ホンダ

・７位～10位決定戦　１回戦

北陸電力	33（16－11、17－７）18	八光自動車
ホンダ熊本	40（23－17、８－10）18	豊田合成

・９位決定戦

八光自動車	29（17－10、12－17）27	豊田合成

・７位決定戦

ホンダ熊本	33（17－14、16－18）32	北陸電力

・５位決定戦

ホンダ	42（20－13、22－14）27	トヨタ車体

・決勝リーグ

大崎電気	39（19－10、20－23）33	トヨタ紡織九州
大同特殊鋼	30（12－14、18－12）26	湧永製薬
大崎電気	34（16－11、18－15）26	湧永製薬
大同特殊鋼	33（17－10、16－16）26	トヨタ紡織九州
湧永製薬	26（13－10、13－14）24	トヨタ紡織九州
大同特殊鋼	34（15－14、19－17）31	大崎電気

【女子】

最終順位

優　勝　広島メイプルレッズ（５年連続７回目の優勝）
準優勝　オムロン
３　位　ソニーセミコンダクタ九州
４　位　北國銀行
５　位　香川銀行ＴＨ
６　位　MIE violet'S IRIS

個人賞

ＭＶＰ	浅井　友可里	（広島メイプルレッズ）
ベストセブン	杉本　絵美	（　〃　）
	青戸　あかね	（　〃　）
	金　　鎭順	（　〃　）
	佐久川ひとみ	（オムロン）
	洪　　延昊	（　〃　）
	田中　美音子	（ソニーセミコンダクタ九州）
	中村　尚美	（北国銀行）
優秀監督賞	林　　五卿	（広島メイプルレッズ）
新人賞	千葉　　歩	（ソニーセミコンダクタ九州）

・予選リーグ：Ａグループ

広島メイプルレッズ	28（16－11、12－11）22	香川銀行TH
ソニーセミコンダクタ九州	26（14－12、12－13）25	香川銀行TH
広島メイプルレッズ	37（21－15、16－18）33	ソニーセミコンダクタ九州

・予選リーグ：Ｂグループ

オムロン	30（12－５、18－７）12	MIE violet'S IRIS
北國銀行	27（16－５、11－７）12	MIE violet'S IRIS
オムロン	25（10－11、15－11）22	北國銀行

・５位決定戦

香川銀行ＴＨ	24（12－８、12－11）19	MIE violet'S IRIS

・決勝トーナメント・１回戦

オムロン	31（15－７、16－９）16	ソニーセミコンダクタ九州
広島メイプルレッズ	27（18－10、９－12）22	北國銀行

・決勝トーナメント・３位決定戦

ソニーセミコンダクタ九州	30（14－13、16－11）24	北國銀行

・決勝トーナメント・決勝

広島メイプルレッズ	**35（20－12、15－10）22**	**オムロン**

平成17年度7月常務理事会

日　時：平成17年7月24日（日）
場　所：広島東急イン3F　羽衣の間
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事9名、監事1名、参事1名、事務局3名

審議事項

1. 西窪常務理事の担当について

西窪氏の理事就任の法的手続きの説明。具体的担当は、日本リーグの活性化と、日本協会企画としての立場で川上常務理事を補佐し、日本リーグを担当する。

2. 第61回兵庫国体ブロック枠チーム割り当て数について

兵庫大会より夏秋季一本化、秋田国体から監督公認指導者資格必須､大分国体から削減。兵庫国体の各ブロック割り当てについての提示、理事20名の書面票決で決定。

国体監督の公認指導資格所持導入に伴い、現時点で公認指導資格所持者を至急調査する。

国体エキストラ枠について競技委員会で検討する。

3. 強化関係について

1）高校生、大学生の強化指定選手の日本リーグチーム出場について。
2）報奨金について。
3）U23以下UNDER選手育成のための育英資金について
4）アジアJr予選について
5）強化財源について

4. 北京オリンピックアジア予選の日本（豊田市）開催について

豊田市とコンタクトを取り、引き受け意思の確認する。その後、情報収集を行い豊田市と交渉を行う。IHF、AHFへの打診は早めに行う。

5. 事務局員の福利厚生について

承認された。

報告事項

1. 平成17年度レフェリー・コーチ研修会について

2. 大会派遣役員について

3. アシックス提案日本代表チームマークについて

4. ワールドゲームズビデオ作成協力について

5. 国際大会スケジュール、IHF公認ボール、フォトオブザイヤー

6. スイスハンドボール研修会参加報告

7. 日体協公認スポーツ指導者制度

8. 大会結果、予定

9. JOC認定アスリートサポートセンター発足について

10. がんばれハンドボール10万人会について

11. 委員会報告

12. その他

1）SSKより寄付
2）日本リーグに関して
3）マーケティングに関して
4）春の中学生大会時に講習会を開催
5）ジュニア選手権時に開催されるコーチ講習会
6）新潟アルビレックスにハンドボールチーム部新設の動きについて

［その他資料］
1. ハンドボール研究第7号（2005年）
2. 事務局連絡資料
3. 平成17年度第1回評議員会議事録、6月常務理事会議事録、第1回理事会議事録

新刊書紹介

文／絵：高村　忠範　発行所：株式会社汐文社
発行：2005年6月　価格：本体価格2,000円＋税

イラスト図解 遊びとゲームを楽しもう！

ニュースポーツ
「ハンドボールをはじめよう」

ハンドボール界待望の小学生向け「ハンドボール解説書」です。イラストを多く使い、小学生でも十分解るように書かれています。
小学生・少年団を指導されている方にもお薦めいたします。

●**購入方法**
図書館配置用図書のため、一般書店には基本的に置かれません。
日本協会では、協会グッズ販売委託業者（*http://www.handballfan.com/shopping*）に販売をお願いしました。購入は、そちらでお願いします。

もくじ

・ハンドボールを楽しもう
・ハンドボールの歴史
・ハンドボールって楽しいぞ
ルール編
・ルールのポイント
1 コートの大きさ
2 チームの構成
3 ボールを持ったら3歩まで
4 ボールを手に持てるの3秒間
5 シュートの方法
6 競技時間
7 ゴールキーパー
8 ボールのあつかい方
9 コイントス
10 スローオフ
11 延長戦
12 ゴールエリア
13 ゴールキーパースロー
14 スローイン
15 フリースロー
16 7mスロー
17 罰則
18 罰則の段階的な適用
19 タイムキーパー
20 スコアラー
21 レフリーによる判定
22 得点
23 相手に対し、して良いこと悪いこと
技術編
・ストレッチングをしよう
・技術のポイント
1 ハンドリング
2 キャッチング
3 パス
4 ドリブル
5 シュート
6 ディフェンス
7 ゴールキーパー
・さくいん

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【福島】舎利弗学　【茨城】高栖侯担、中馬睦子　【埼玉】豊田貴之　【東京】古川浩之、平賀とみ子、後藤恵理子、松井郁雄　【神奈川】木本一成、臼井鉄久　【富山】西坂真理子、越前明子　【石川】中田絵里、中田麻里　【愛知】田中基明、小林　勇、西みどり　【三重】原美佐子　【滋賀】大迫祐介　【大阪】繁田順子、塩川正十郎　【島根】森江和吉、奥村佳弘　【広島】河本幸男、河本幸枝、入本富男　【鹿児島】西花丈雄、本田娟一、岡山明弘

【11月の行事予定】

【会議】…………………………………………………

11月12日（土）　常務理事会

11月12日（土）　第2回理事会

【大会】…………………………………………………

11月5日～9日（水）

高松宮記念杯男子48回女子41回全日本学生選手権

11月13日（日）　女子世界選手権壮行試合（日本リーグオールスター戦）

日本協会インサイド

スポーツジャーナリストセミナー2005開催される

スポーツジャーナリストセミナー2005（主催：財団法人日本オリンピック委員会＝JOC、日本スポーツ記者協会）が平成17年9月30日（金）、新橋・共同通信社大会議室にて開催されました。セミナーの趣旨はオリンピック・ムーブメントの一環として、より良いスポーツ報道の在り方を目指し、メディア関係者との意見交換を目的としたものです。日本協会からは川上常務理事（広報担当）、兼子常務理事（事務局長）、機関誌担当の3名が参加いたしました。竹田JOC会長の挨拶に続き、JOCゴールドプラン～ステージⅡ～の説明、パネルディスカッション「競技団体広報とメデイアの接点～取り上げて欲しい情報と取り上げたい情報」が行われました。ゴールドプラン～ステージⅡ～の説明では市原副会長（JOC常務理事／ゴールドプラン委員長）が「ナショナルトレーニングセンターについて」説明を致しました。

HAND BALL CONTENTS Nov

普及の胎動……………………………………角　紘昭　1

第34回全国中学校ハンドボール大会

心をつないだ豊橋大会……………………牧原宏太　2

選手のすばらしいプレーと補助員生徒の活渾に感動……3

男子優勝チームの声………………………増田　徹　4

女子優勝チームの声………………………尾石智洋　5

第18回全国小学生大会

全国小学生ハンドボール大会に想う…………大羽隆夫　6

男子優勝チーム………桑村純一・舛田真一・濱田槙人　7

女子優勝チーム………杉山　武・西城誠一・今井道則・浜本由里……………………8

第15回女子ジュニア世界選手権（U-20）

世界トップを目指し“格”あるチームへ…………市原則之　10

歴史に残る勝利と見えてきた課題…………蒲生晴明　10

確実に世界へ近づいている…………………東江正作　11

フリースロー：～君たちなくして日本の将来はない～……………………………………早川文司　15

高松宮記念杯第46回全日本実業団選手権………………17

第1回アジアユース選手権大会……玉村健次・染谷雄輝　18

第3回ハンドボールコーチング研究会報告⑤………………20

山田永子のノルウェー研修日記④………………………21

平成17年度コーチ・レフェリーシンポジウムから‥山西博文　22

日本協会インサイド：

北村善夫氏がフォト・オブ・ザ・イヤーに入賞……………23

スコアールーム

①第34回全国中学校大会／②第18回全国小学生大会／③第46回全日本実業団選手権大会……………………24

協会だより…………………………………………27

10万人会9月会員／11月の行事予定／目次………………28

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般·大学·高校)

HVN200

検定球2号、人工皮革
女子(一般·大学·高校)・中学校

HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます

1 人工皮革
2 フォーム層
3 補強層
4 ラバーチューブ

MIKASA®
SPORTS EVERY DAY!

株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四六五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可　平成十七年十月二十六日印刷 平成十七年十一月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一 電話 代表 〇三－三四八一－二三六一 振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円